KIORITZ

取扱説明書

共立農用運搬機
NKRF19



モデル：ＮＫＲＦ１９−Ａ
小型特殊自動車

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、 ***共立農用運搬機*** **（乗用型）**をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店・ＪＡにご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、**「安全に作業をするために必ずお守りください」**を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店・ＪＡへご相談ください。
- マスターキーとスペアーキーは、別々にして大切に保管してください。

おことわり

- 本製品は改良のため､使用部品などを変更することがあります｡その際には､本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
［重要］	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

本製品の使用目的について

本製品は、圃場内運搬機ですので、農用の運搬機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で仕様によっては該当しない項目もあります。

ＮＫＲＦ１９－Ａ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 固定荷台、ガソリンエンジン

ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 油圧ダンプ荷台、ガソリンエンジン

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。
2章 公道走行と関係法規について	●小型特殊自動車について説明しています。
3章 保証とサービスについて	●保証とアフターサービスについて説明しています。
4章 各部のなまえと各操作部のはたらき	●本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
5章 運転と作業のしかた	●エンジンの始動から走行のしかた、および運搬台の使用のしかたを説明しています。
6章 作業後の手入れについて	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
7章 手入れと点検・調整について	●長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
8章 不調診断	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
9章 その他	●仕様、および主要消耗部品について説明しています。
10章 電気回路図	●電気回路図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）……2
本製品の使用目的について……2
仕様について……2

本文の概要　3

1章　安全に作業をするために必ずお守りください　6

1．作業者の体調・服装について……6
2．使用する機械について……7
3．運転前・作業前点検をするとき……8
4．作業をするとき……14
5．トラックへの積込み・積降しをするとき……21
6．格納をするとき……24
7．安全銘板の貼付け位置……25

2章　公道走行と関係法規について　27

小型特殊自動車について……27
公道走行と関係法規について……27
ナンバープレートの交付を受けてください……27
届出のしかた……27

3章　保証とサービスについて　28

保証書は大切に保管してください……28
アフターサービスをお受けになるときは……28
機械の廃棄について……76

4章　各部のなまえと各操作部のはたらき　29

5章　運転と作業のしかた　31

1．運転前の点検……31
2．燃料の点検・給油のしかた……33
3．エンジンの始動・停止のしかた……33
4．発進・旋回・変速・停止のしかた……36
5．運搬のしかた……40
6．デフロックレバーのつかいかた……43
7．水たまりでの運転のしかた……44
8．坂道での運転のしかた……44
9．圃場への出入りのしかた……45
10．トラックへの積込み・積降しのしかた……45

6章 作業後の手入れについて 47

1．作業後の手入れ……47
2．長期間使用しない場合の手入れ……48

7章 手入れと点検・調整について 51

1．定期点検一覧表……53
2．給油箇所一覧表……54
3．各部の注油･グリスアップのしかた……55
4．各部オイルの点検･交換のしかた……57
5．エアクリーナの掃除･交換のしかた……59
6．燃料こし器の掃除のしかた……60
7．キャブレタの点検について……60
8．燃料フィルタと燃料ポンプの交換のしかた……61
9．燃料ホース･電気配線の点検のしかた……62
10．電球（バルブ）の交換のしかた……62
11．点火プラグの点検のしかた……64
12．ヒューズの点検･交換のしかた……65
13．バッテリの点検、整備のしかた……65
14．ブレーペダルの調整のしかた……67
15．駐車ブレーキレバーの調整のしかた……69
16．クラッチペダルの調整のしかた……69
17．クラッチペダル部始動安全スイッチの調整のしかた……71
18．主変速レバー部始動安全スイッチの調整のしかた……71
19．油圧レバーの調整のしかた……72
20．油圧ポンプ、駆動ベルトの張り調整のしかた……72
21．アクセルペダルの調整のしかた……73
22．デフロックレバーの調整のしかた……74
23．タイヤ空気圧の調整のしかた……74
24．トーインの点検･調整のしかた……75
25．開閉フックの調整のしかた……75
26．ハンドルの点検のしかた……76

8章 不調診断 77

1．エンジン関係……77
2．クラッチ関係……79
3．ブレーキ関係……80
4．チェンジ・伝動関係……80
5．操行関係……81
6．油圧関係……81
7．電装関係……82

9章 その他 83

1．主要諸元……83
2．主要消耗部品……84

10章 電気回路図 85

1章　安全に作業をするために必ずお守りください

●この運搬機を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な免許証が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。
●ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1．作業者の体調・服装について

⚠警告

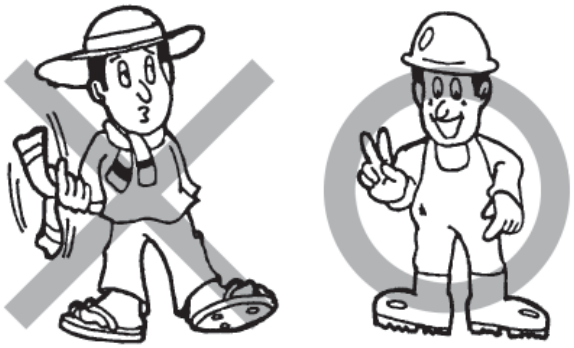
■こんなときは運転しない
●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
●睡眠不足の人。
●視力不足のため表示内容が読めない人。
●取扱説明書の内容が理解できない人。
●酒を飲んだとき。
●妊娠しているとき。
●１８歳未満の人。
●運転が未熟な人。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。



■作業に適した服装
はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2．使用する機械について

⚠注意



■点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に､クラッチペダル･ブレーキペダル･ハンドルなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



■機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し､使用前に**「取扱説明書」**を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



■定期点検、整備を受ける

１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



■安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

本機には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。

操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、販売店・ＪＡに注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。

3．運転前・作業前点検をするとき

⚠危険



■荷台下での点検、整備時は荷台落下防止金具を使用

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

■注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



■指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。また、ガソリンはポリタンクで保管しないでください。必ず鋼製燃料タンクで保管したガソリンを使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。



■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠危険

■燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



■燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

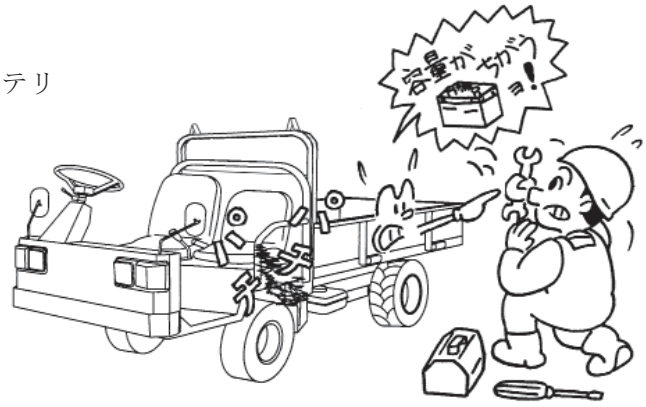


■必ず指定のバッテリを使用

バッテリを交換するときは、必ず指定のバッテリを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



■バッテリの点検は火気厳禁

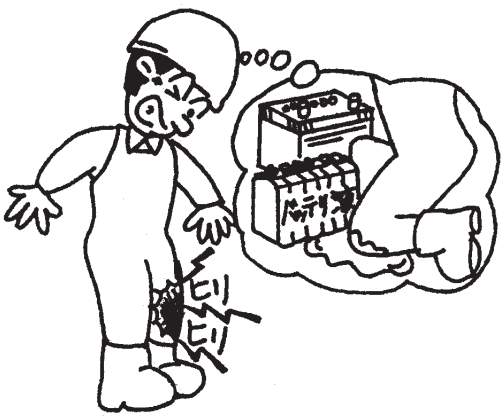
バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火し、爆発して火傷などを引きおこすおそれがあります。



⚠危険



■バッテリ液は体につけない

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。

■バッテリ取付け、取外しは正しい手順で



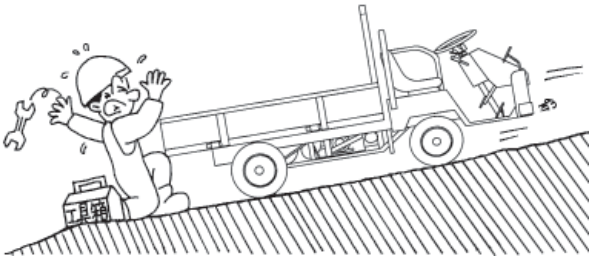
バッテリを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引きおこすおそれがあります。

⚠警告

■点検、整備は平坦な安定した場所で



交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤには車止めをして点検、整備をしてください。また、ジャッキアップをして点検、整備をするときは必ず指定された位置にジャッキをセットしてください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ事故をおこすおそれがあります。

■バッテリ液を「下限（LOWER)」以下にしない



バッテリ液は液面レベルの「上限（UPPER LEVEL)」と「下限（LOWER LEVEL)」の間にあることを確認し、「下限（LOWER LEVEL)」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限（LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

⚠警告

■機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。
改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



■タイヤは必ず点検

タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。
タイヤに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

タイヤがパンクして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■タイヤホイル取付ボルトの締付け確認とホイルの傷のチェック

タイヤホイルの取付けボルトは、確実に締付けてあるか確認してください。そのときにホイルに傷がないかも確認してください。

【守らないと】

タイヤが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。



⚠警告

■排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部にわらくず・ゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。



⚠注意

■ブレーキ・ハンドルは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、片効きしていないか、またハンドルに著しいガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



■点検、整備は高温部が十分冷えてから

マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。



⚠注意

■点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

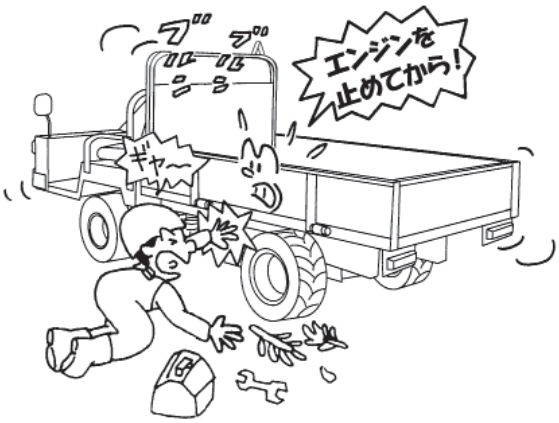
機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



■部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて傷害事故をおこすおそれがあります。



■高圧オイルに注意

（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。



■カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



4．作業をするとき

⚠危険

■後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、後方に障害物がないか確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

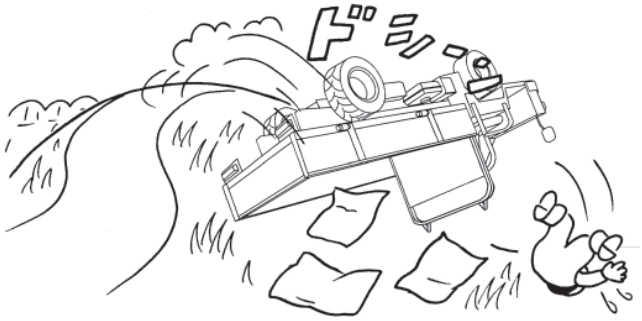


■移動時は路肩および路面の状況に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

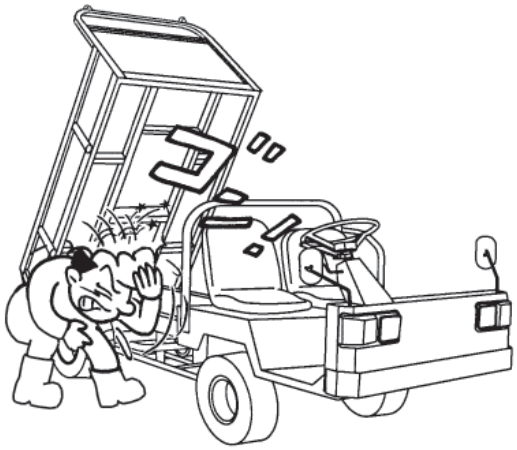


■荷台の下は、立入厳禁

荷台の下にもぐったり、足を踏入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で荷台が下がったときに、傷害事故をおこします。



⚠警告

■エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



⚠警告

■周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ずクラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、主変速レバーを「N（中立）」位置にし、周囲の人に合図をしてからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■公道走行をするときは道路交通法規を厳守

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



■関係法規を守り安全運転を

道路を走行するときは関係法規を厳守してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



■補助席以外は人を乗せない

この農用運搬機の乗車定員は２名です。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告

■人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



■燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



■過積載禁止

最大作業能力以内で作業してください。勾配のあるところでは荷物を軽くして作業してください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

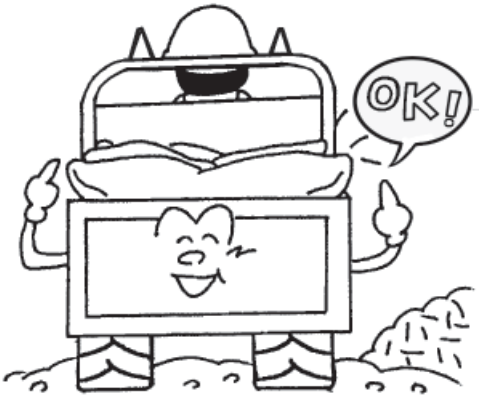


■積載物は荷台から、はみ出し禁止

積載物は荷台から、はみ出さないようにしてください。

【守らないと】

荷崩れをおこし転倒・転落をおこすおそれがあります。



⚠警告

■積載物を高く積まない

積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また後方の障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。

【守らないと】

機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■積載物にはロープを掛け、確実に固定

積載物は荷崩れしないように、確実にロープを掛けてください。

【守らないと】

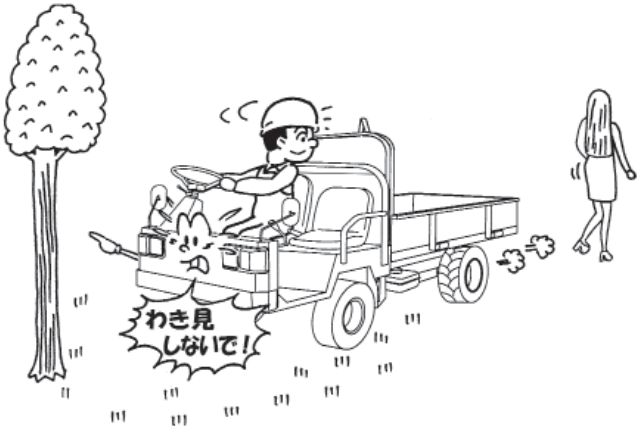
荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



■わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



■ブレーキのまま走行禁止

坂道を下るときは、主変速レバーを**「前進１」**位置にし、エンジンブレーキを効かせ、クラッチペダルを切ったり、主変速レバーを**「N（中立）」**にしないでください。またブレーキペダルの多用はやめてください。

【守らないと】

ブレーキを傷めたり、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。



⚠警告

■ブレーキの使い過ぎ禁止

急な下り坂での走行は十分注意して行ってください。変速は「**前進１**」にして、エンジンブレーキを使用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、事故をおこすおそれがあります。

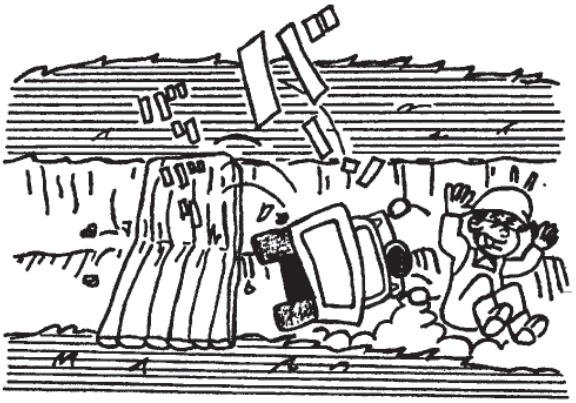


■溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用

作業場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

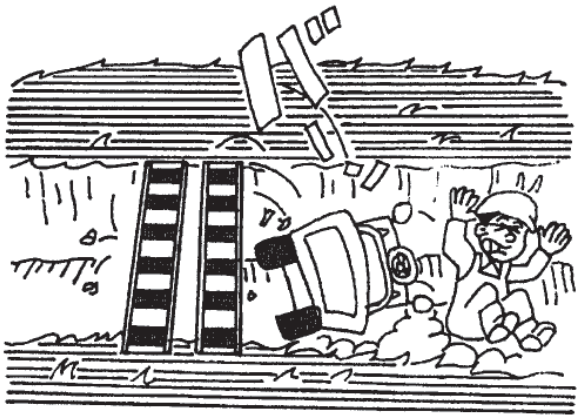


■急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、「**前進１**」、「**後進Ｒ**」の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

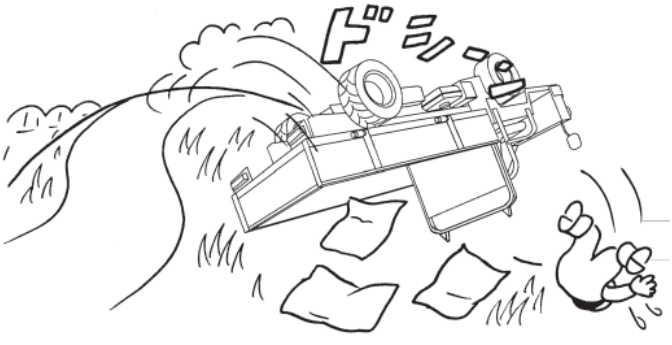


■坂道やあゆみ板の上では、だ性運転禁止

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して行ってください。クラッチを切ったり、変速を「**Ｎ（中立）**」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。



⚠警告

■坂道では荷物の積降し禁止

坂道で荷物の積降しをすると、本機のバランスが崩れますのでしないでください。

【守らないと】

転倒などにより、事故をまねくおそれがあります。



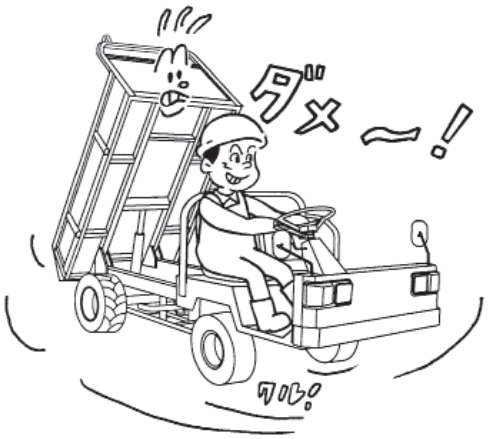
■荷台をダンプした状態で走行禁止

（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

荷台をダンプした状態で走行しないでください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、そのうえ障害物の確認ができません。
死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



■坂道では、ダンプ作業禁止

（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

坂道では、ダンプを利用しての荷物の排出はしないでください。

【守らないと】

本機のバランスが崩れ、死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



⚠注意

■暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

本機が自然に動きだし、事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意



■農用の運搬以外は使用禁止

農用運搬機ですので、農用の運搬以外の作業や改造などは決してしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。



■マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



■荷台には乗らない

走行中は人を荷台に乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

⚠注意

■急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは､十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

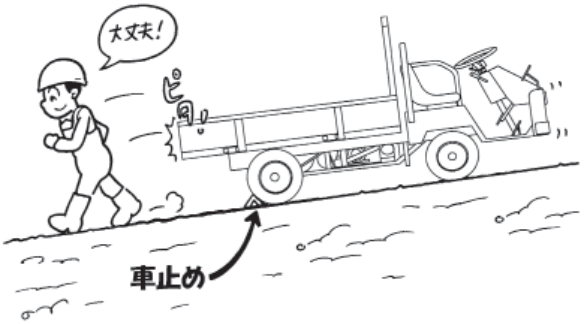


■機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



5．トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠警告

■強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

- ●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上。
- ●幅……本機のタイヤ幅の 1.5 倍以上。
- ●強度…本機の総重量に十分耐えられるもの。（１本当たり）
- ●表面…すべり止めのあるもの。
- ●形状…固定フックのあるもの。

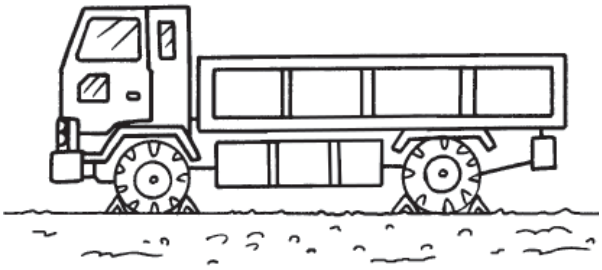
⚠警告

■トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



■あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのタイヤに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

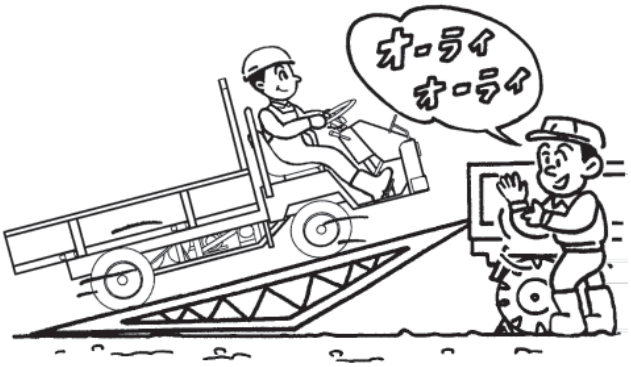


■積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



■積込み・積降し作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



⚠警告

■荷台を下げてあゆみ板を使用
（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

あゆみ板を使用して積込み、積降しをするときは、本機の荷台を下げ、荷物を載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。



■登るときは前進、降りるときは後進でおこなう

積込みの場合「**前進１**」、積降しの場合は「**後進Ｒ**」の低い速度で行ってください。あゆみ板とトラック荷台の継目を越えるときは、急に重心が変わりますので注意して走行してください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

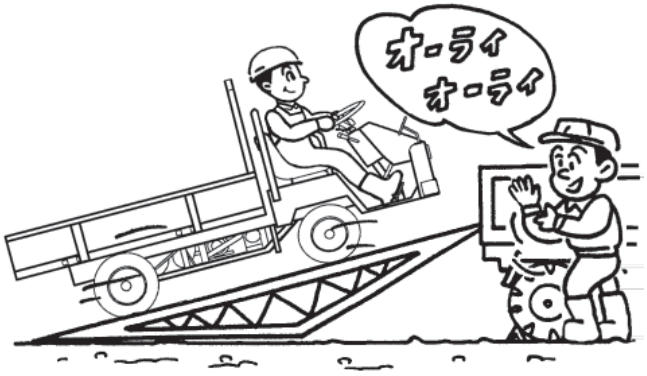


■あゆみ板の上ではハンドル操作厳禁

あゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定め、最低速度で行ってください。進路を変えるための、ハンドル操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「**閉**」にしてから動かないように車止めをし、強度の十分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



６．格納をするとき

⚠危険



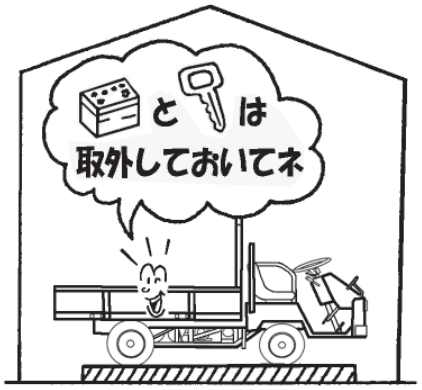
■シートは機械が十分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。長期格納時は、気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすことがあります。

⚠警告



■長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリを取外すときは、㊀側を先に外します。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

⚠注意



■機械の近くに可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

【守らないと】

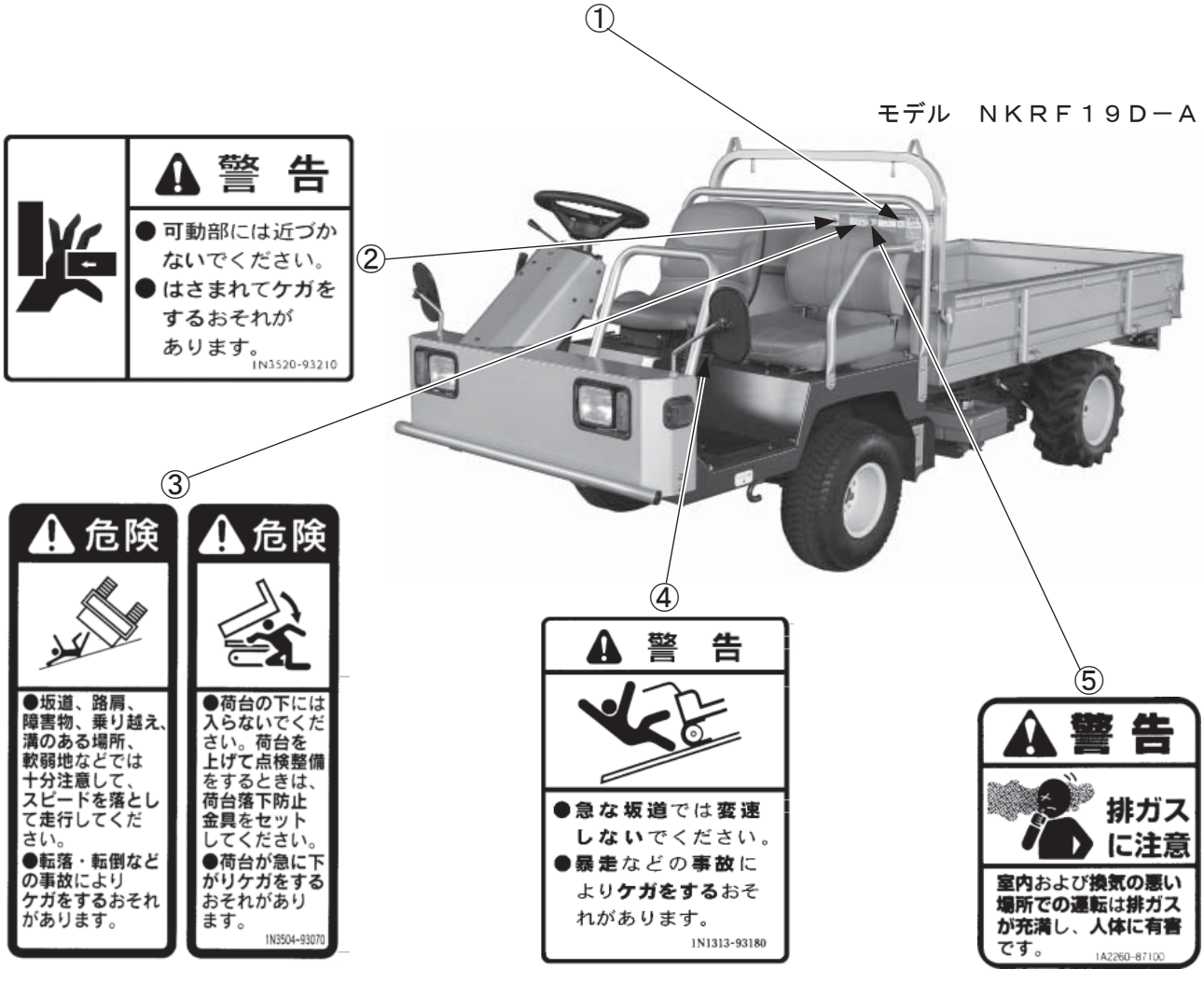
機械が動きだしたり、火災事故を引きおこすことがあります。

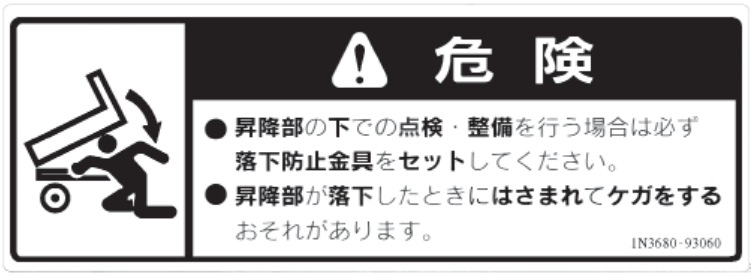
7．安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

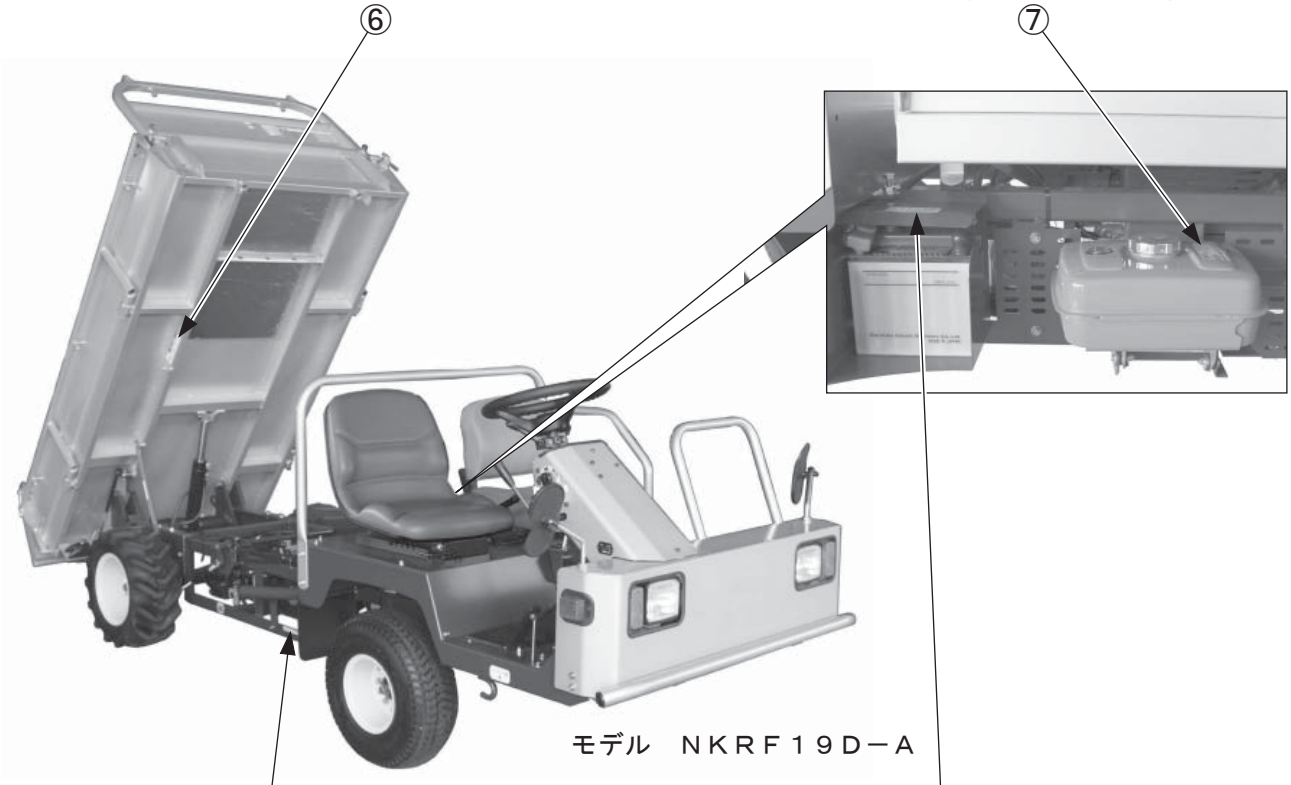


モデル　ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ

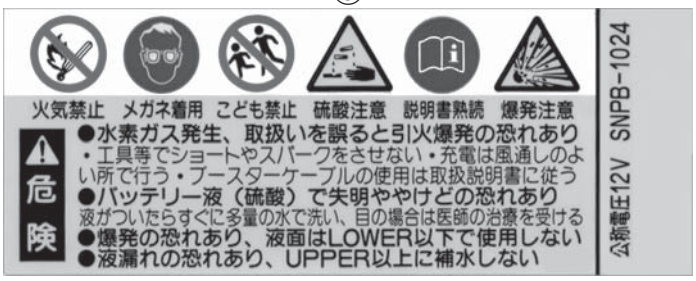












No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
1	1N3580-93161	警告・注意一式（乗用）	6	1N3680-93060	危険（昇降部）
2	1N3520-93210	警告（可動部）	7	1A2100-86500	危険（火気厳禁）
3	1N3504-93070	危険一式（運搬機ダンプ荷台用）	8	1E5120-86720	注意（マフラー）
4	1N1313-93180	警告（急坂道）	9	1N3680-51060	危険（バッテリ）
5	1A2260-87100	警告（排ガス）			

2章　公道走行と関係法規について

この農用運搬機は道路運送車両法第３条の小型特殊自動車です。
公道走行を行うためには、下記事項に注意してください。

小型特殊自動車について

●下記の項目のことは、特に注意してください。

①型式の異なるエンジンの搭載はできません。

②走行装置などの構造を変更をしての運行はできません。

③エンジンおよび本機で、封印されているところは触らないでください。封印を外した場合、一切保証はいたしません。

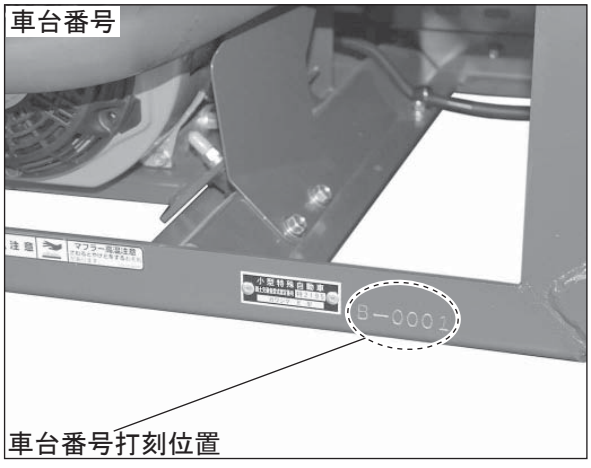
④この農用運搬機は、圃場での運搬作業を目的とした自動車です。荷物を積載しての公道走行はできません。道路交通法に違反しますので、絶対に行わないでください。

※運行資格⇒公道を走行する場合は、小型特自動車の運転可能な免許証が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。

※保　　険⇒この農用運搬機は道路運送車両法の小型特殊自動車で、自動車損害賠償保障法第２条の「自動車」に該当し、強制保険の対象になります。自動車損害賠償責任保険には、必ず加入してください。

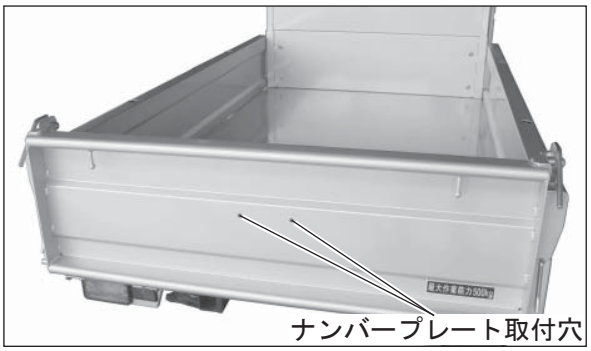
公道走行と関係法規について

この農用運搬機（乗用型）には、道路運送車両法第29条に基づき自動車としての車台番号を打刻しています。打刻を削ったり塗りつぶしたりして打刻を消さないでください。番号を読めなくした場合、道路運送車両法違反となり刑罰の対象になります。



ナンバープレートの交付を受けてください

この農用運搬機は小型特殊自動車なので、公道を走行するしないにかかわらず、必ず農用運搬機取得の届出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取付けてください。



届出のしかた

小型特殊自動車販売証明書（販売店・ＪＡが発行します）ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。（市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは販売店・ＪＡにご相談ください。）
記載要領は下記事項を参照してください。

●種　　別：小型特殊自動車

●形　　状：ホイール・キャリヤ

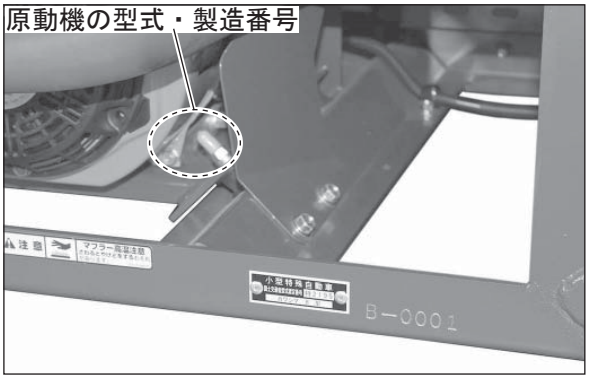
●車　　名：カワシマ

●型　　式：Ｂ

●原動機の型式：三菱ＧＢ２２０

●車　台　番　号：左記図の位置に打刻してある番号を記入してください。
（例）Ｂ－００１１

●原 動 機 番 号：下記図の位置にある番号を記入してください。
（例）ＧＢ２２０－００３６１



●総 排 気 量：０．２１５Ｌ

3章　保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

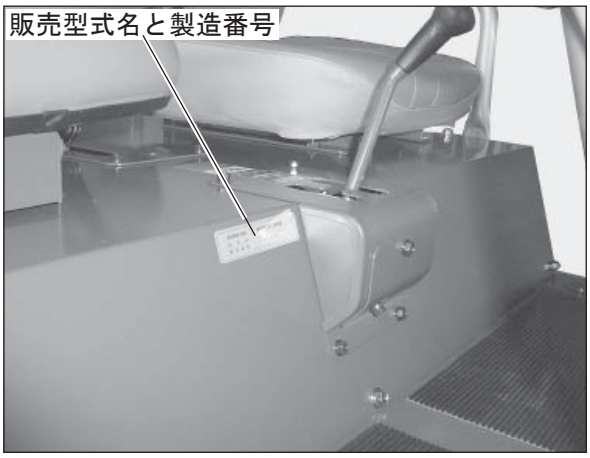
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

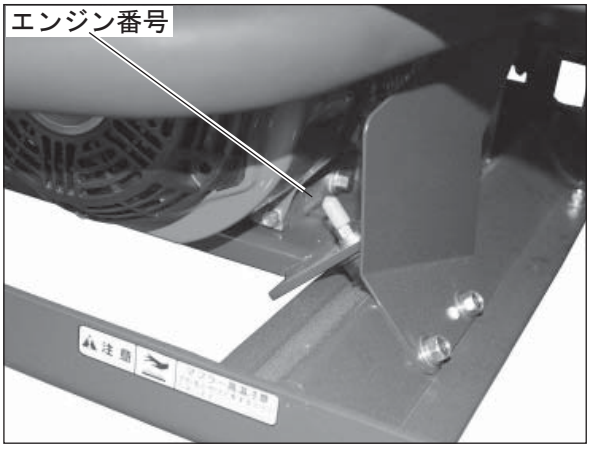
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店・ＪＡまでご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- ●販売型式名と製造番号
- ●エンジンの場合はエンジン番号
- ●ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- ●どのくらい使用されましたか？
  （約□□□時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。





〈補修部品の供給年限について〉
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

機械の廃棄について

機械を廃棄する場合、購入された販売店・ＪＡもしくは廃棄物処理業者に依頼してください。
法律に違反する行為は絶対にしないでください。
詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

モデル　ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ

●ウインカ（フロント）

●ヘッドライト

●ウインカ（サイド）

●ハンドル
機体はハンドルを回転させた方向にまがります。

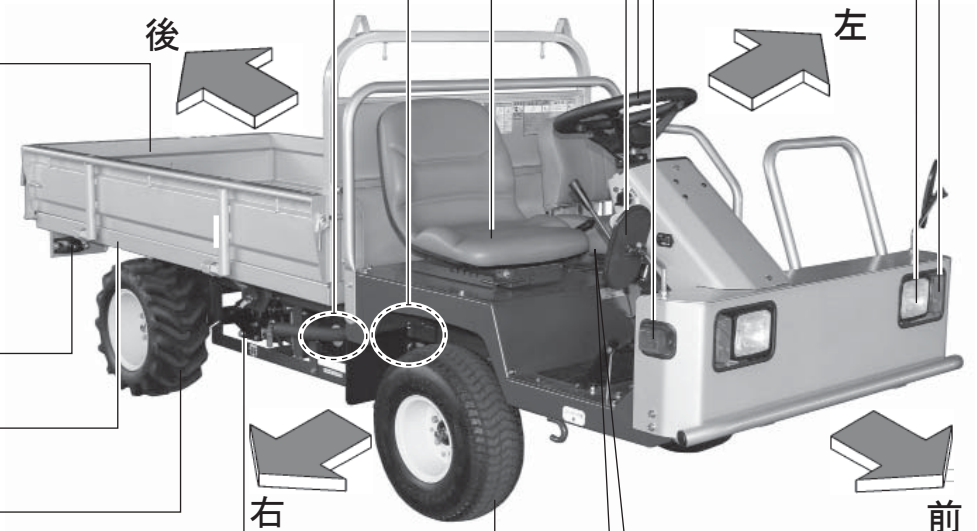
●バックミラー

●運転席

●油圧ポンプ
（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

●エンジン（原動機）

●あおり



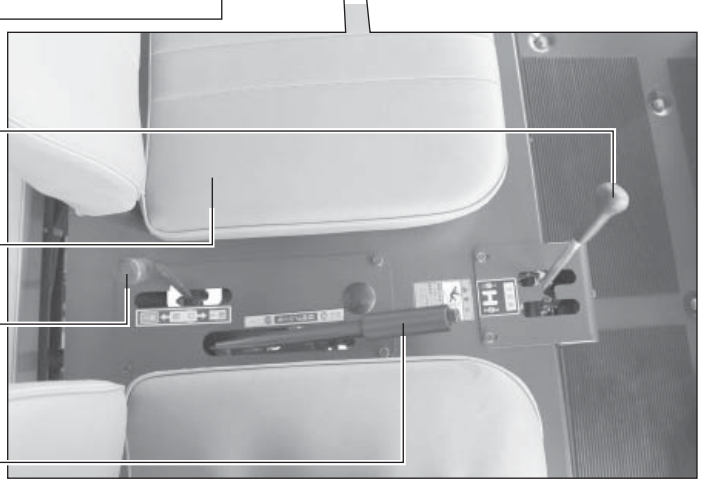
●ウインカ（リヤ）

●荷台

●後輪タイヤ
１９×８.００－１０－４ＰＲ

●走行ミッション

●前輪タイヤ
１８×７.００－８－４ＰＲ

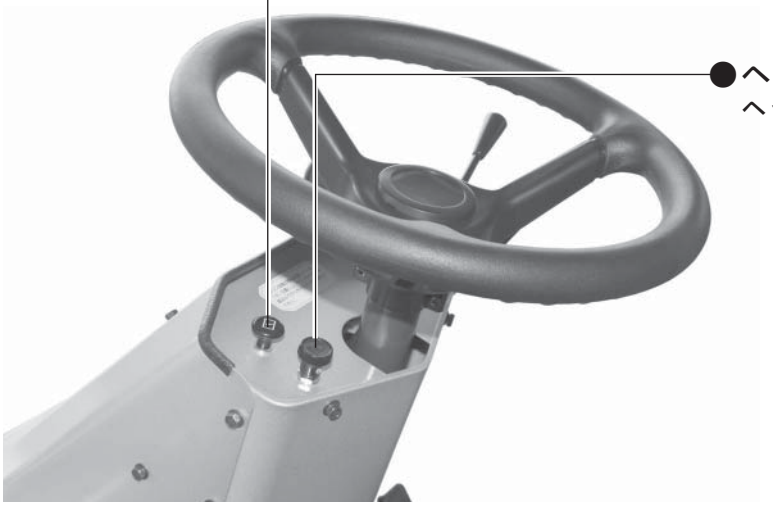


●主変速レバー
前進３段・後進１段。

●助手席

●油圧レバー
（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）
荷台の上昇、下降に使用します。

●駐車ブレーキレバー



●チョークノブ

●ヘッドライトスイッチ
ヘッドライトの点灯に使用します。

●デフロックレバー
「**ロック**」位置にすると差動装置がロックされ、左右の駆動タイヤが同じ回転速度で駆動されます。

●アワメータ
走行時間を時間単位で表示します。
※右端の数字は１／１０時間（６分）です。
　点検、部品交換時に、この時間を目安にします。

●ウインカスイッチ
キースイッチが「**入**」位置のとき、スイッチ操作をすると、ウインカが点滅します。（上に引くとホーンが鳴ります）

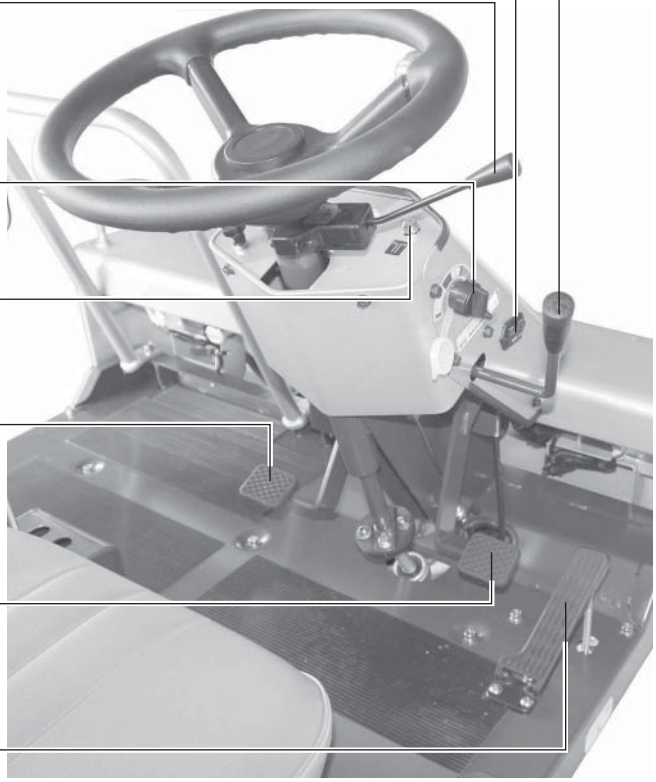
●キースイッチ
エンジンの始動・停止に使用します。

●ウインカ作動確認ランプ
ウインカが作動しているときに点滅します。

●クラッチペダル
エンジンからミッションまでの動力を伝えたり、切ったりするのに使用します。ペダルを踏むと「**切**」となり、放すと「**入**」となります。

●ブレーキペダル
ペダル踏むとブレーキが掛かり、放すと解除になります。

●アクセルペダル
エンジンの回転を上げたり、下げたりするのに使用します。



1．運転前の点検

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

●エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

●燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

●燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

●マフラー・エンジン回りに限らずゴミなどは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠注意

●点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

●感電ショック防止のため、エンジン回転中はプラグコード、プラグキャップ、点火プラグ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

①前日の異常箇所

●前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②本機のまわりを回ってみて

●各部の変形・損傷・汚れ

●ミッションオイルの油もれ　……58

●油圧ポンプの量と油もれ　……59

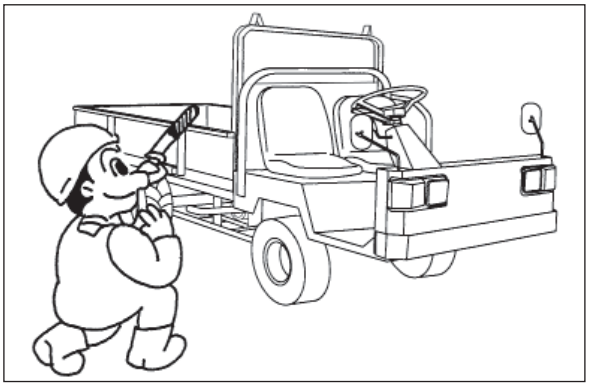
●タイヤ空気圧・磨耗度合・損傷　……74



●タイヤホイル・アクスルシャフトの取付けボルト・ナットのゆるみ

●車体各部の損傷、ボルトのゆるみ

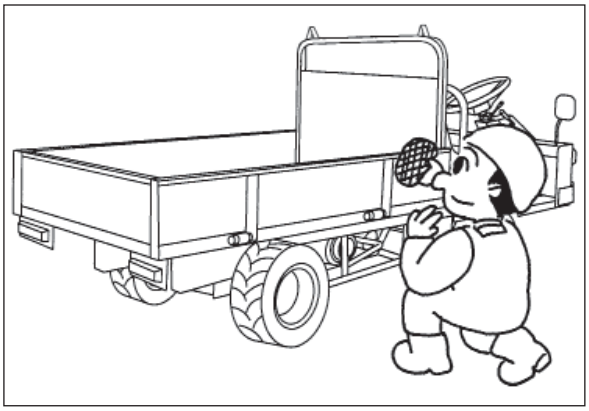
●エンジンオイルの量と汚れ、油もれ　…57



●燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷
……33、61、62



●エアクリーナの汚れ　……59



●マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ
……78

●マフラーの亀裂や腐食などの異常



●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
……62

③バッテリ

●バッテリ液の量　……65



④ハンドル・レバー・ペダルを操作してみて

●各部の作動状態　……67 ～ 75

●ハンドルの遊び０～ 20 ㎜　……76



⑤エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音

●排気ガスの色　……78



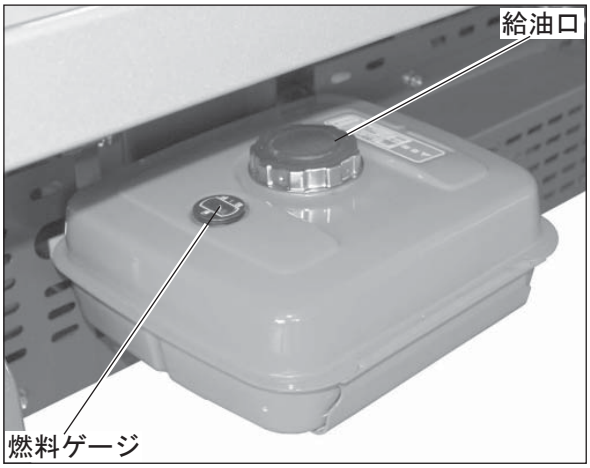
２．燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

●燃料をあふれないように入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

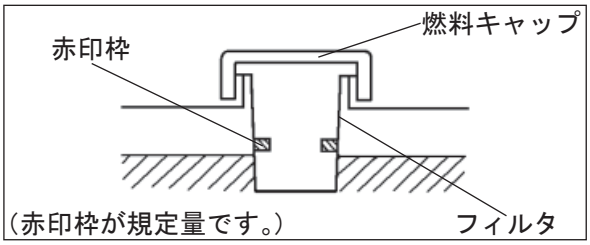
点検

荷台左下にある燃料タンクの燃料ゲージで燃料の残量を調べ、不足している場合は、上部の給油口から補給してください。



給油

「自動車用無鉛ガソリン」をフィルタについている赤印枠より、ややひかえめに入れてください。燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。



［重要］

●ガソリンはポリタンクで保管しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやすくキャブレタ部品の穴詰まりなどのトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。

●ガソリンは常に新しいものを使ってください。購入後１ヶ月以上経過したガソリンの使用は気化器部に粘着物が付着する原因となり、運転不調をおこすおそれがあります。

３．エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

●エンジン始動時は、必ず運転席に座りクラッチを切り、主変速レバーを**「N（中立）」**位置にし、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

●マフラーやエアクリーナカバーを外したままエンジンを運転しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

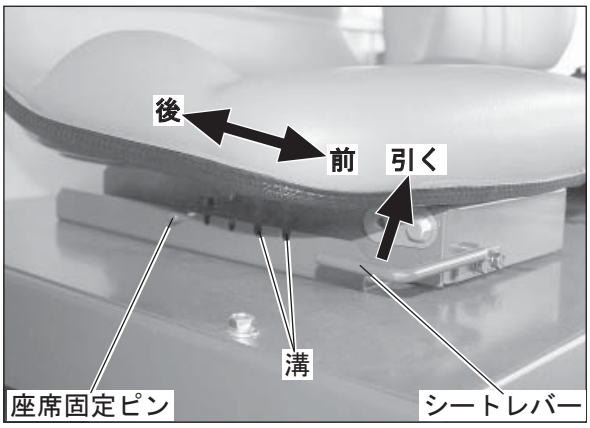
●機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。駐車ブレーキレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。

●暖機運転中は、駐車ブレーキを掛けてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし事故をおこすおそれがあります。

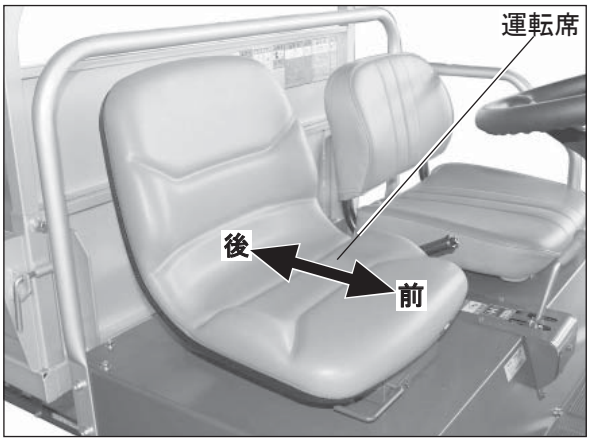
●運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

座席の合わせかた

①運転席右側下部のシートレバーを「**上側**」に引くとシートは前後に調節できます。



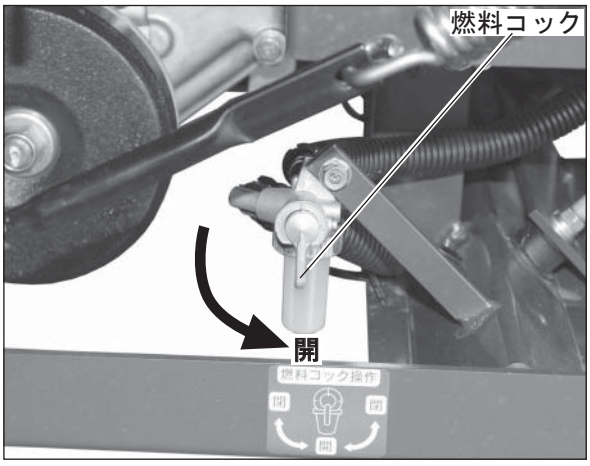
②調節後は、座席固定ピンがガイド板の溝に確実に入ってロックされていることを確認してください。



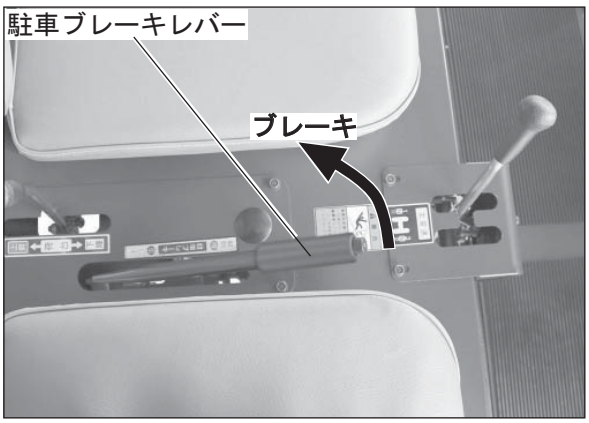
※助手席は、前後の調整は出来ません。

エンジンの始動のしかた

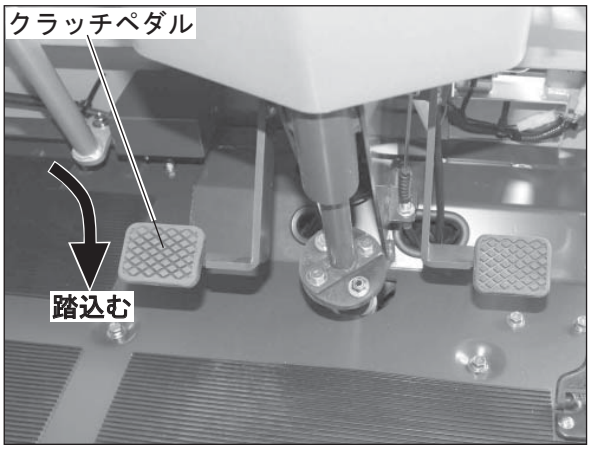
①燃料コックを「**開**」にします。



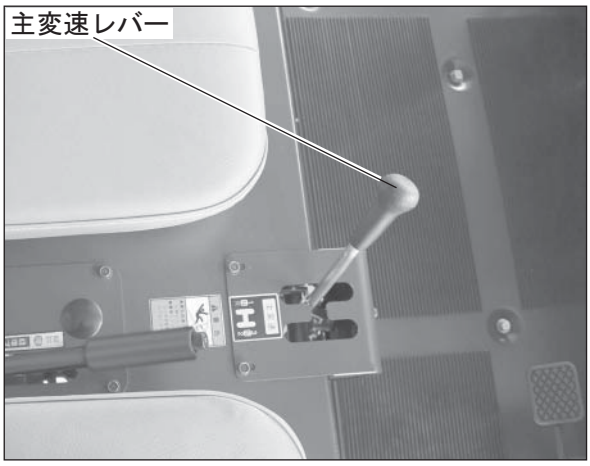
②駐車ブレーキを掛けます。



③クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ります。

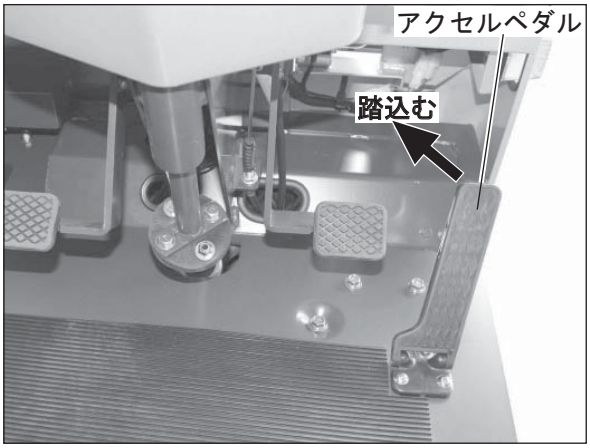


④主変速レバーを「**N（中立）**」位置にします。

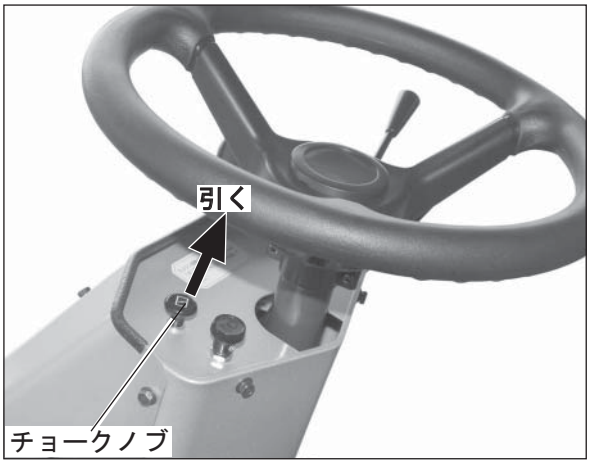


※クラッチペダルを完全に踏込み、主変速レバーを「N（中立）」位置にしないと、始動安全スイッチが働いてセルモータが回りません。確実に踏込んでからエンジンをスタートしてください。

⑤アクセルペダルを少し踏込んでください。

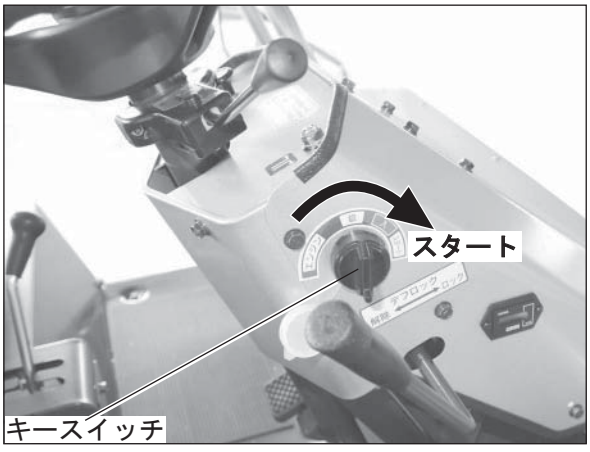


⑥チョークノブを引きます。



※エンジンが暖まっているときや、およそ外気温が15℃以上のときはチョークノブを引かないでください。

⑦キースイッチを**「スタート」**位置まで回します。エンジンが始動したら速やかにキースイッチから手を放します。キースイッチは自動的に**「入」**位置に戻ります。



⑧エンジンが始動したら、エンジンの回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

※エンジン始動時は、駐車ブレーキを掛けたままで、アクセルペダルを戻し、約５分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。　　（エンジンの暖機運転）

［重要］

●約５秒以上セルモータを使ってもエンジンが始動しない場合、いったんキースイッチを切り、１分間以上バッテリを休ませてから、再び始動させてください。

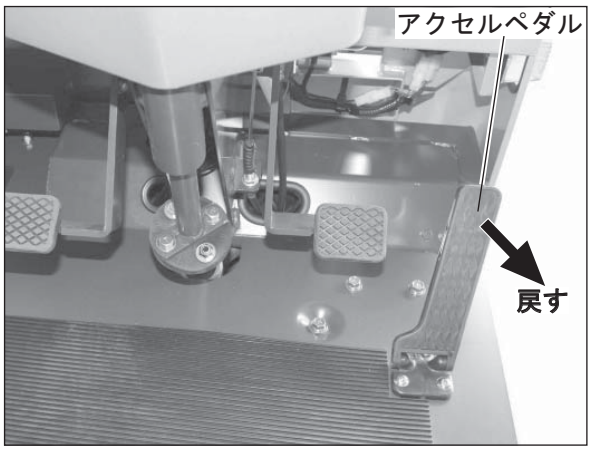
●冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルペダルを少し踏み暖機運転を行ってください。

●エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

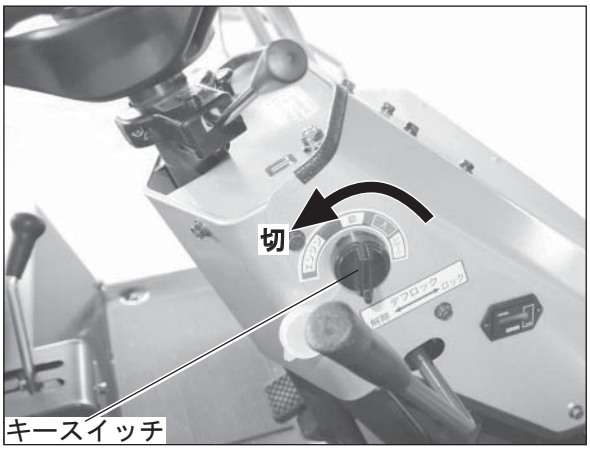
エンジンの停止のしかた

①駐車ブレーキレバーが**「ブレーキ」**位置にあることを確認してください。

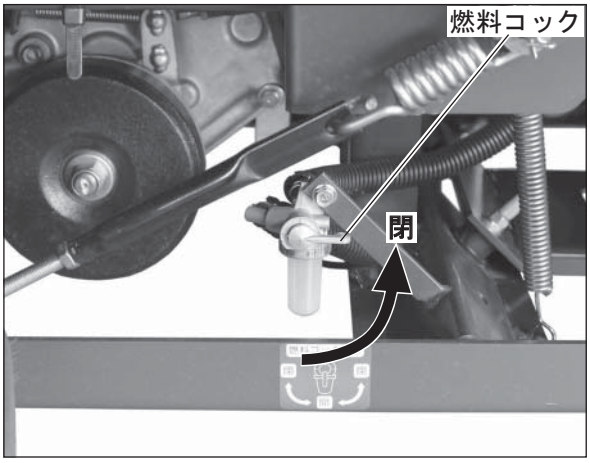
②アクセルペダルを戻します。



③キースイッチを「**切**」位置にし、エンジンを停止します。



④燃料コックを「**閉**」にします。



※万一、故障しエンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて、燃料がなくなるまで放置してください。

⑤キーを抜きます。

［重要］

●エンジンを高回転のまま停止しないでください。

●運転後は、アイドリング回転１～２分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で３～５分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

４．発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠危険

●発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

●急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

●後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

⚠警告

●公道を走行をするときは、道路交通法規を厳守してください。乗車定員は２名です。それ以上に人を乗せないでください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

●発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

●本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所に保管してください。守らないと、児童などが操作して事故をおこすおそれがあります。

●走行中は、駐車ブレーキレバーを「**ブレーキ**」位置にしたり、またはブレーキペダルを連続して踏まないでください。ブレーキが磨耗して、効かなくなり、暴走して大変危険です。

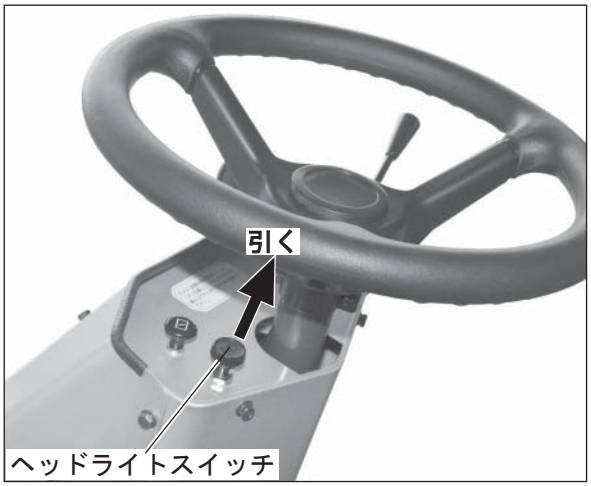
⚠注意

●走行中は、絶対にクラッチペダルの上に足をのせないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

●本機から離れるときには、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めて車止めをしてください。守らないと本機が動きだし事故をおこすおそれがあります。

ライトのつかいかた

ヘッドライトスイッチを引くと点灯します。

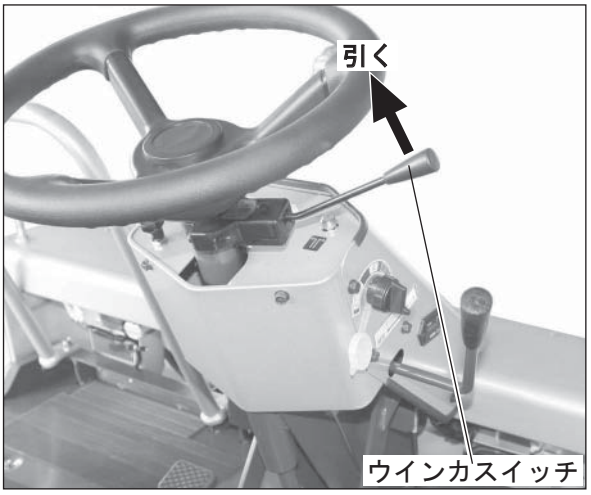


［重要］

●エンジン停止中は、ヘッドライトを消してください。バッテリが放電します。

ホーンのつかいかた

ホーンはウインカスイッチを上に引くとホーンが鳴ります。

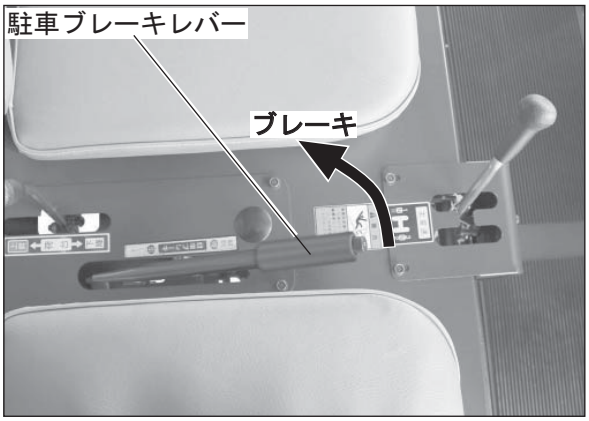


発進のしかた

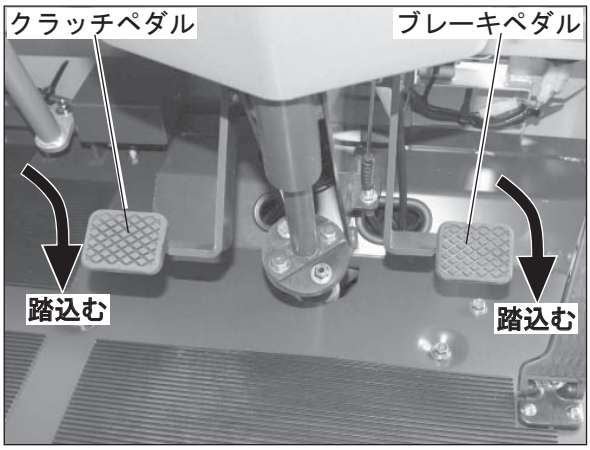
⚠注意

●クラッチペダルはゆっくり放してください。急に放すと急発進して危険です。

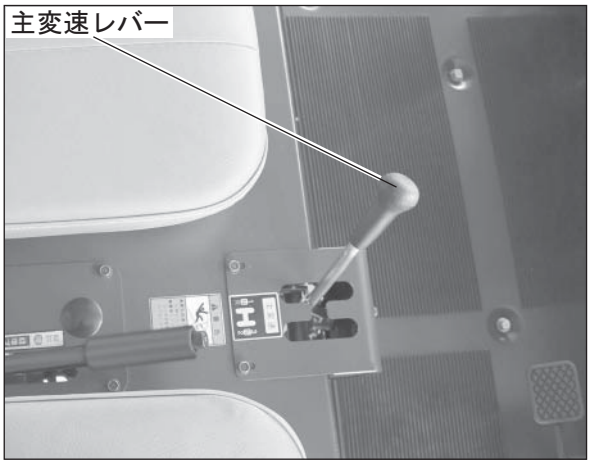
①駐車ブレーキレバーが**「ブレーキ」**位置にあることを確認してください。



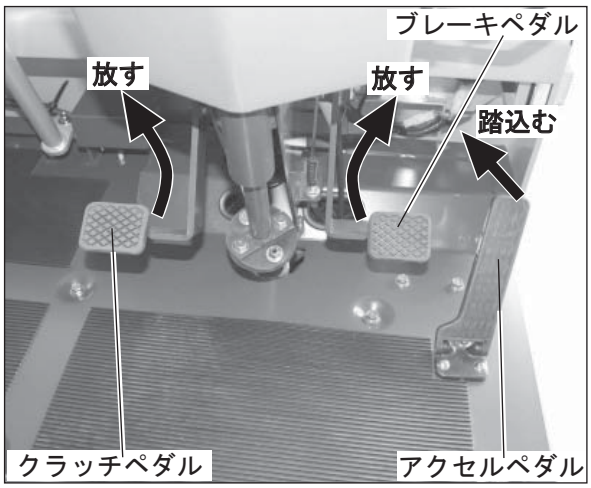
②クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルも踏込みます。

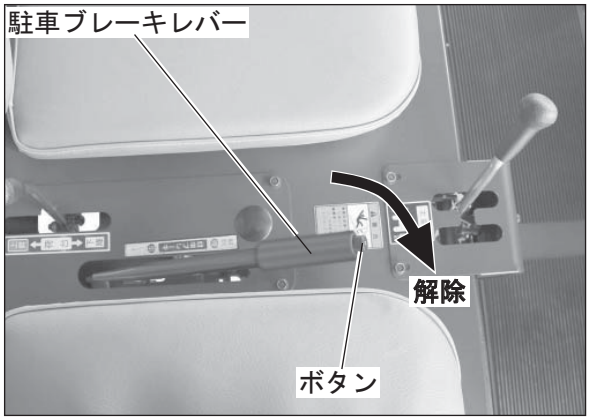


③主変速レバーで速度を選びます。



④ブレーキペダルを放して、アクセルペダルでエンジンの回転を少し上げながら駐車ブレーキレバーを**「解除」**位置にし、クラッチペダルをゆっくり放して発進します。





※駐車ブレーキレバーを引いた状態で、ボタンを押して解除します。

[重要]

●走行中は、クラッチペダル、およびブレーキペダルから足を放してください。

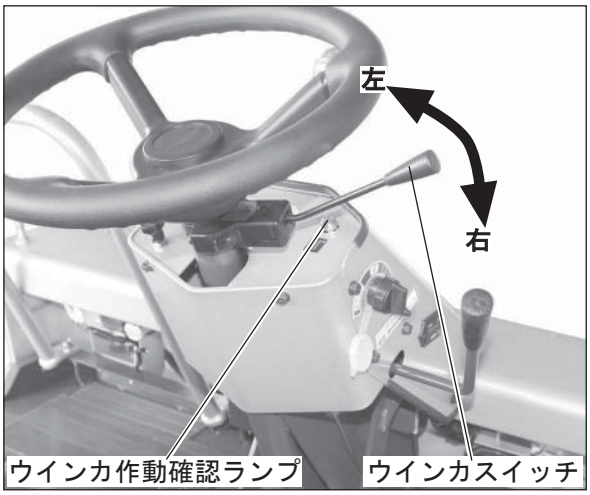
●発進以外では、半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調整をクラッチで行わないでください。

旋回のしかた

⚠警告

●旋回するときは、必ずアクセルペダルを戻してスピードを落とし、安全を確認してから、ハンドル操作をしてください。

左に旋回するときは、ウインカ点滅のため、ウインカスイッチを左側に、右に旋回するときは、右側に操作してハンドルを回してください。旋回後は、ウインカスイッチを戻してウインカを切ってください。



※ウインカが作動しているときはウインカ作動確認スイッチが点滅します。

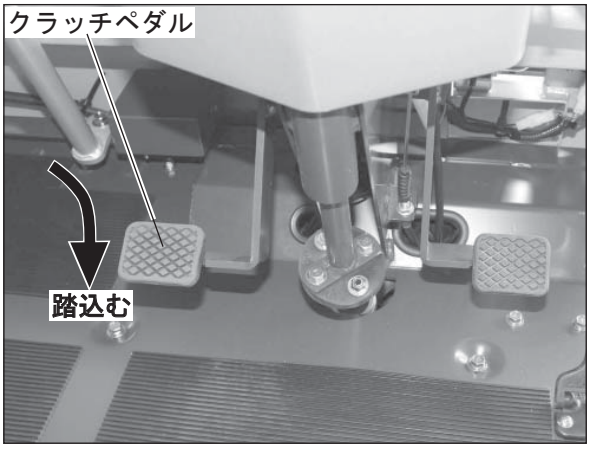
変速のしかた

⚠警告

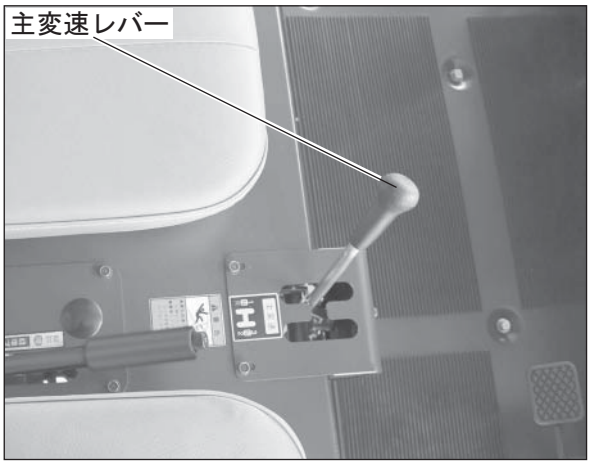
●急坂道やあゆみ板の上では、**「前進１」、「後進R」**の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

①クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ります。



②主変速レバーを操作します。



※前進３段、後進１段の変速ができます。変速はクラッチペダルを確実に踏込んで行ってください。

※主変速レバーの操作は、機械を完全に停止してから行ってください。

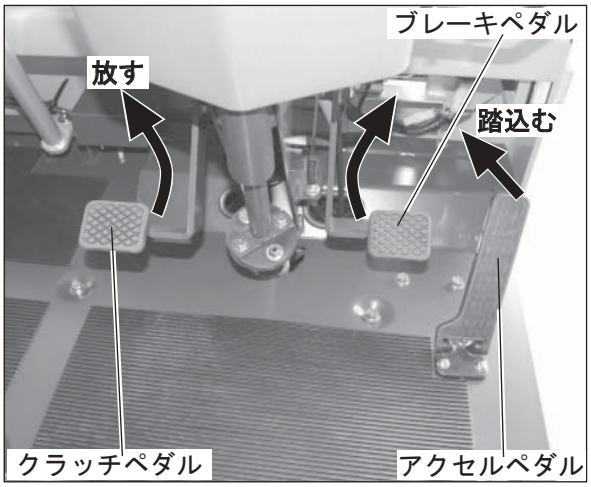
※主変速レバーがスムーズに入らない場合は、クラッチペダルを少しだけつなぎ、すぐに踏込んで再度、主変速レバーを操作してください。

[重要]

●走行中の変速は、機械の破損の原因になりますのでしないでください。

●主変速レバーの無理な操作は走行ミッション内部の破損の原因となります。絶対にしないでください。

③アクセルペダルでエンジンの回転を少し上げながらクラッチペダルをゆっくり放して発進します。

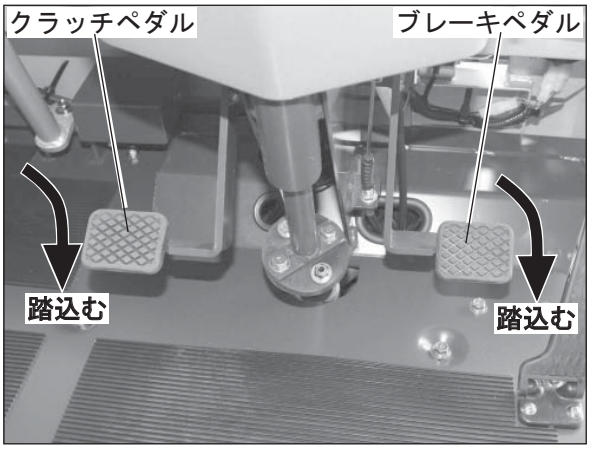


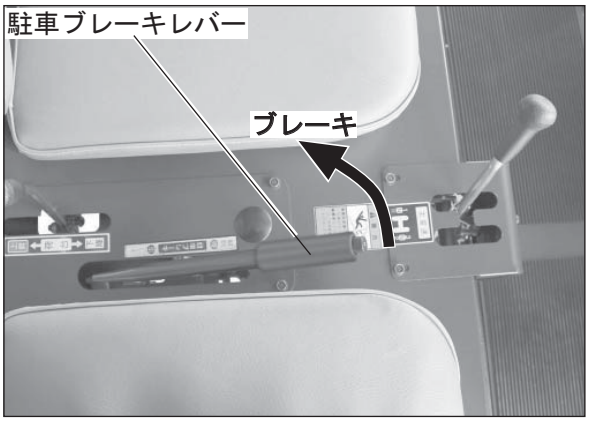
※クラッチペダルを踏込んでクラッチペダルをゆっくり放すとスムーズに発進できます。

停止のしかた

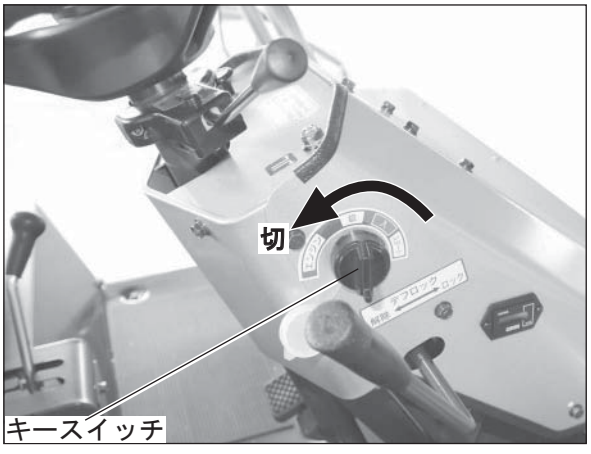
①エンジンの回転を下げます。

②クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキを踏込んでブレーキを掛けて機体を停止させます。その後で駐車ブレーキを掛けます。

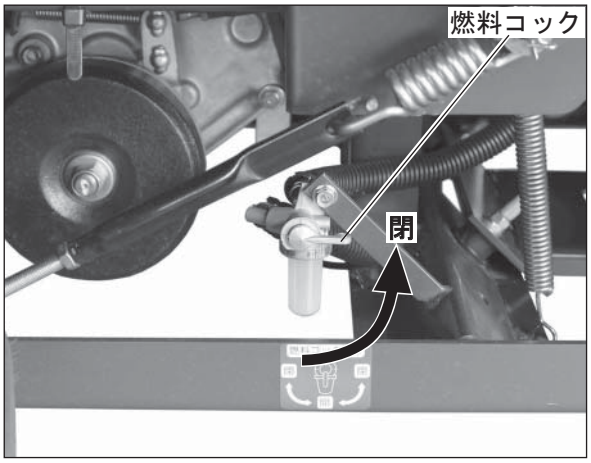




③キースイッチを**「切」**位置にし、エンジンを停止します。



④燃料コックを「閉」にします。



［重要］

●積荷や路面の状況により制動距離（停止位置）は変わります。ブレーキは早めに踏みましょう。

●緊急時以外には、できるだけ急ブレーキを掛けないでください。車体や走行ミッションに過大な力が掛り、機械の寿命を短くします。

●機体を草や可燃物の上に止めてエンジンの空ぶかしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより火災の原因になるおそれがあります。

駐車のしかた

⚠注意

●駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず駐車ブレーキを掛けて止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

５．運搬のしかた

⚠危険

●走行中は、油圧レバーを操作しないでください。ハンドル操作がおろそかになり、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。
（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

⚠警告

●最大作業能力以上は荷物を積まないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

●積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●積載物は荷台からはみ出さないようにしてください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●坂道では積荷の重量を軽くして、安全に走行してください。

●坂道では荷物の積込み、積降しはしないでください。本機の前後バランスが崩れたり、荷崩れをおこし、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

⚠注意

●荷台には人を乗せないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

最大作業能力

最大作業能力は 500 kgです。必ず守って安全に作業を行ってください。
安全に効率よく作業をするため、バランスよく積載してください。

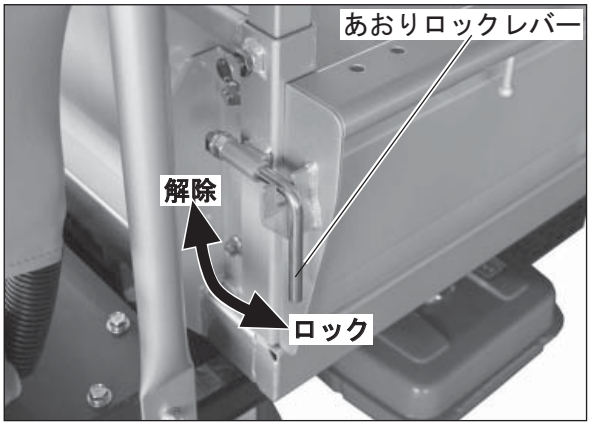
勾	圃場
	最大作業能力（kg）
平坦地（0°～5°）	５００
5°～２０未満	２５０
２０°以上	積載・無積載に関らず使用禁止

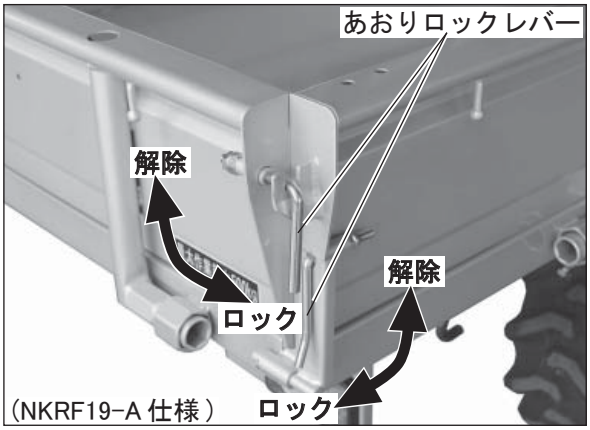
※積荷の重心が荷台中心になるように積載してください。

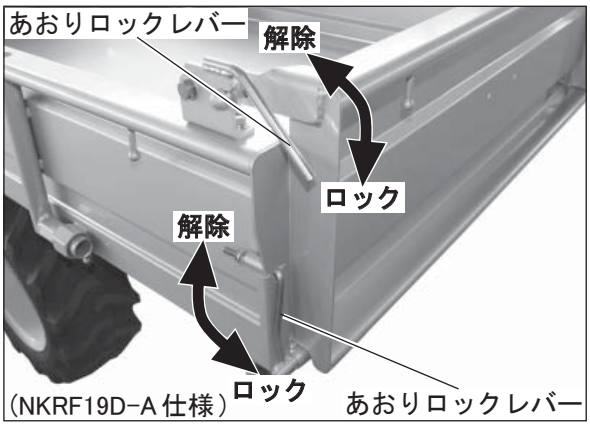
あおりの開閉のしかた

開閉のしかた

荷物の積込み、積降しをするときには、あおりを開くと便利です。あおりロックレバーを**「解除」**して、あおりを開きます。





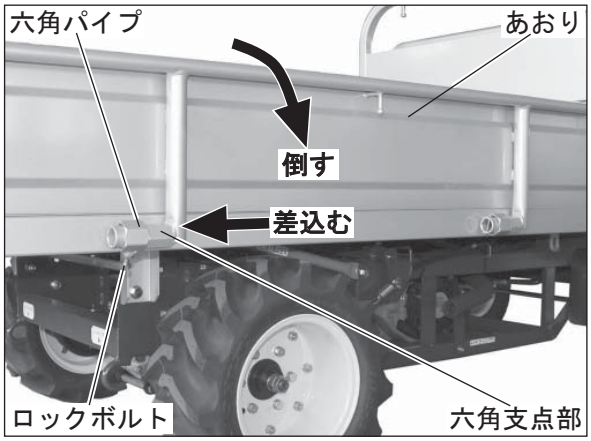


［重要］

●あおりを閉めたときは、あおりロックレバーを確実に**「ロック」**してください。ロックレバーが外れると荷崩れをおこし転倒・転落により傷害のおそれがあります。

水平のしかた

①六角支点部のロックボルトをゆるめます。



②あおりを外して六角支点部に六角パイプを差込んで、ロックボルトを締付けます。

（NKRF19-A 仕様）



（NKRF19D-A 仕様）



※公道上はあおりを水平にして走行しないでください。

［重要］

●あおりを水平にしたときは、ロックボルトを確実に締付けてください。あおりが外れて荷崩れをおこし転倒・転落により傷害のおそれがあります。

●左右のあおりを水平にしたままや、後ろ側のあおりを下ろした状態でダンプさせないでください。あおりが脱落して、変形するおそれがあります。　（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

荷台の操作のしかた

［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

⚠危険

●ダンプした荷台の下には、入らないでください。

●荷台を上げての点検、整備は、荷台落下防止金具をセットしてください。何らかの原因で荷台が落下し傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

●坂道での油圧ダンプを利用した荷物の排出は絶対にしないでください。本機が浮上がり転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●荷台をダンプした状態で走行しないでください。バランスが崩れやすくなり、その上、障害物の確認ができません。死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。

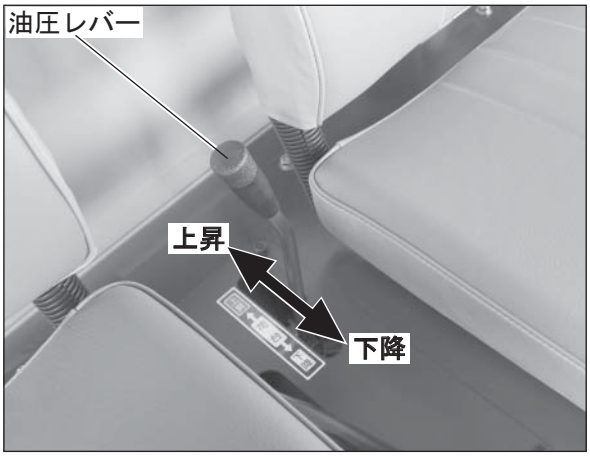
⚠注意

●足場の悪い所や傾斜地でのダンプ作業はしないでください。

●周囲の安全を確保し、駐車ブレーキを掛けて操作してください。

水平な場所で、エンジンをかけた状態で駐車ブレーキを掛けてからダンプ操作を行ってください。

荷台を上げたいときは、油圧レバーを「**上昇**」の方に、下げたいときは、油圧レバーを「**下降**」の方に操作してください。





※油圧レバーを操作してもリリーフ弁が作動（ピーという音がします）して荷台がダンプしない場合は、積み過ぎですから積荷を減らしてください。

※アクセルペダルの操作で、油圧ダンプの上昇、下降スピードが変えられます。高速側にアクセルペダルを動かすとダンプスピードが速くなりますので、周囲の安全を確認の上、ダンプ作業をしてください。

［重要］

●ダンプ操作をしないときは、必ず油圧レバーが溝に入っていることを確認してください。
（Ｐ７２参照）

●荷台をダンプ状態からエンジンを始動させないで下降させると、シリンダー内が真空となり、スムーズな操作ができなくなります。

● 20 秒以上連続してリリーフ弁を作動（ピーという音がします）させないでください。油圧ポンプの破損につながります。

６．デフロックレバーのつかいかた

⚠警告

●通常の旋回するときは、必ずデフロックレバーを手から放して「**解除**」位置にし、戻ったことを確認してから旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこしたり、ミッションが破損するおそれがあります。

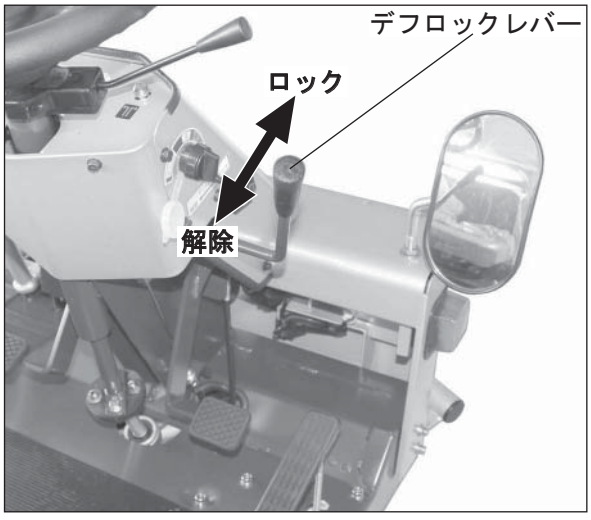
●通常の走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと走行は不安定になり事故をおこしたり、ミッションが破損するおそれがあります。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときにデフロックを使用すると効果があります。

①本機を停止させます。

②デフロックレバーを「**ロック**」位置に押したままにします。（差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。）

③主変速レバーを「**前進１**」か「**後進Ｒ**」にしてゆっくり発進し、ぬかるみなどから脱出します。脱出したらデフロックレバーから手を放し「**解除**」位置にします。



［重要］

●デフロックレバーを「**ロック**」位置にするときは、エンジン回転を下げてから行ってください。

７．水たまりでの運転のしかた

⚠注意

●冠水した道路は走行しなでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な機械の故障の原因になるおそれがあります。

［重要］

●水たまりを走行したあとは、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

８．坂道での運転のしかた

⚠警告

●あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道を走行中は、主変速レバーを操作しないでください。

●坂道では主変速レバーを**「N（中立）」**位置にしないでください。

●坂道では駐車をしないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

●坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。

●坂の途中では、クラッチペダルを踏込まないでください。本機がすべり落ちて大変危険です。

●上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。

●変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキを掛けてください。

●傾斜角度15度以上の傾斜地で連続運転すると、エンジン故障のおそれがあり危険ですので、急斜面での運転はしないでください。

急な上り坂での発進

①駐車ブレーキを掛けます。

②クラッチペダルを踏込んで、クラッチを切ります。

③主変速レバーを**「前進１」**位置にします。

④アクセルペダルをゆっくり踏み込みながらエンジンの回転を上げ、クラッチペダルを半クラッチ状態にすると同時に駐車ブレーキレバーを完全に**「解除」**位置にしてクラッチペダルを放して発進します。

９．圃場への出入りの　しかた

⚠警告

●圃場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷物は積まないで、重心を低くしてください。

［重要］

●圃場への出入りは、作業場にたいして直角に出入りしてください。

10．トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠警告

●積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、**「車止め」**をしてください。

●使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。

●荷台を下まで一杯下げて、荷物は積まないでください。　　（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

●誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのハンドル操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

●積込みは**「前進１」**、積降しは**「後進Ｒ」**で、ゆっくりと、エンジンブレーキを十分効かせて行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●本機があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに**「車止め」**をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

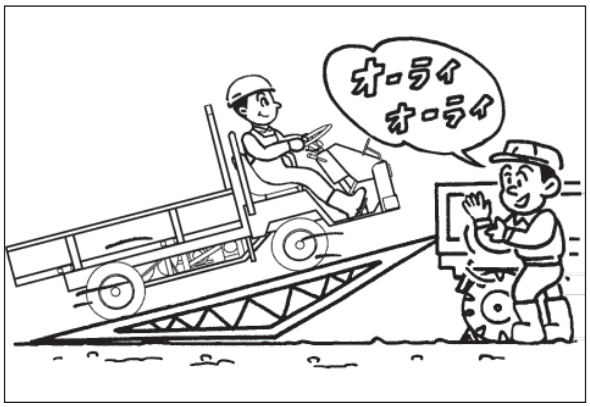
あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。
●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上。
●幅……本機のタイヤ幅の 1.5 倍以上。
●強度…本機の総重量に十分耐えられるもの。（１本当たり）
●表面…すべり止めのあるもの。
●形状…固定フックのあるもの。

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

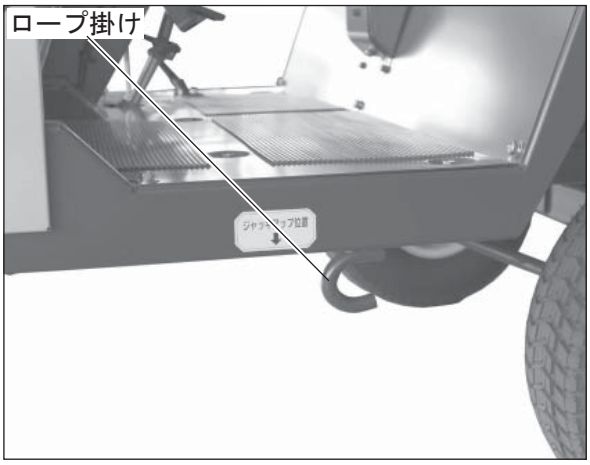
④左右タイヤがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤積込みの場合は**「前進１」**で、積降しの場合は**「後進Ｒ」**の低い速度で行ってください。

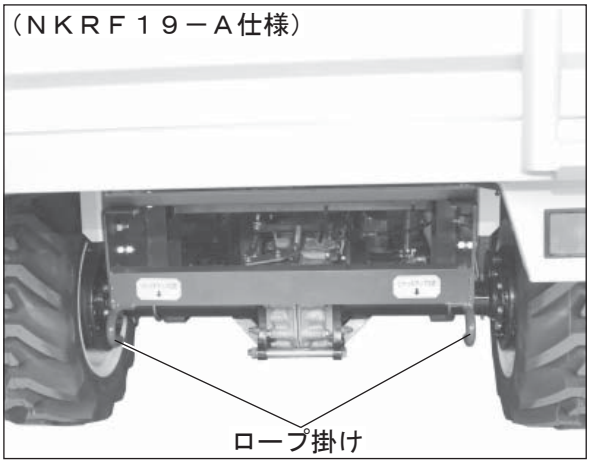
⑥積込み中、途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



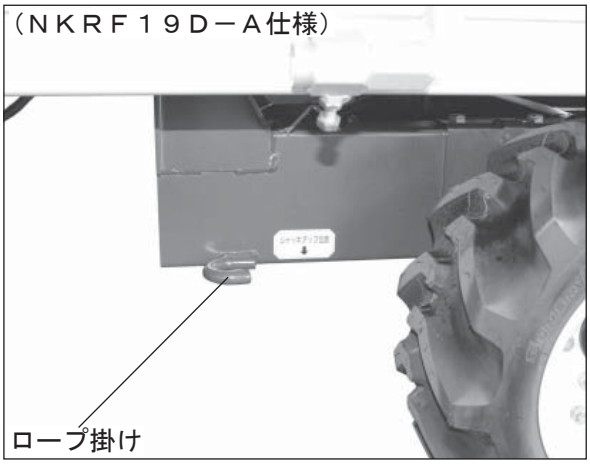
⑦本機にロープ掛けが前に２ヶ所、後に２ヶ所の合計４ヶ所あります。強度の十分あるロープで、トラックに本機を確実に固定してください。ただし、本機の固定以外の使用には使わないでください。



（ＮＫＲＦ１９－Ａ仕様）



（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）



6章　作業後の手入れについて

⚠危険

●燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

●シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

●格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず**「車止め」**をしてください。本機が自然に動いて事故になります。

⚠注意

●お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

1．作業後の手入れ

⚠警告

●マフラー・エンジン回りに限らずゴミなどは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

①その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

②荷台は必ず降ろしてください。

③格納はできる限り屋内にしてください。

④駐車ブレーキを掛けてください。

⑤厳寒時はバッテリを外し、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

［重要］

●水洗いをするときは、エンジン、樹脂部品、電装品および、マーク貼付け部などには高圧水を掛けないでください。高圧水を掛けると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形をおこしたりします。また、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。

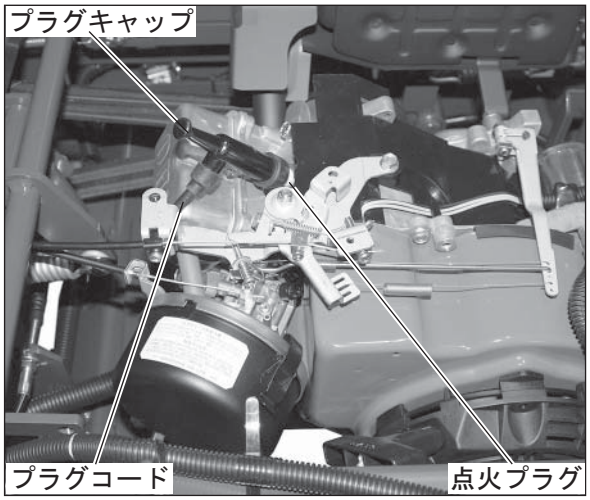
２．長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

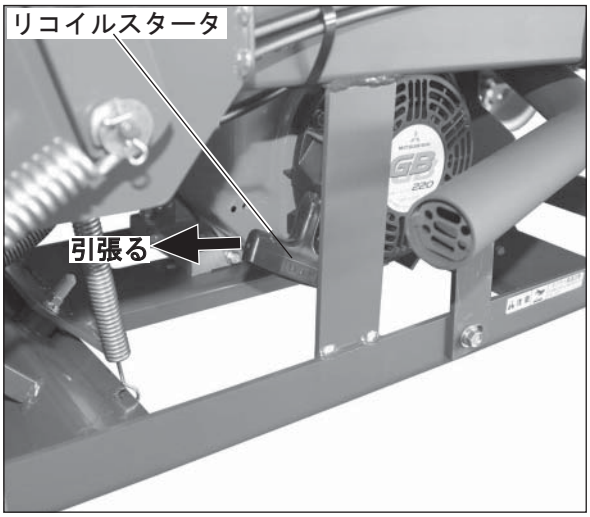
●格納する場合は、バッテリを取外し、キーを抜取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

①点火プラグのプラグキャップを外します。

②付属のボックススパナで点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを 10 cc位入れます。



③リコイルスタータを２～３回引きます。
（キースイッチは必ず**「切」**位置にします）



④再び点火プラグを取付けて、リコイルスタータを軽く引き、重たくなった所（圧縮のある）で止めておきます。（エンジンを始動させてはいけません）

※圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

⑤プラグコード、プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

⑥燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料抜きの要領

⚠危険

●燃料の交換中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

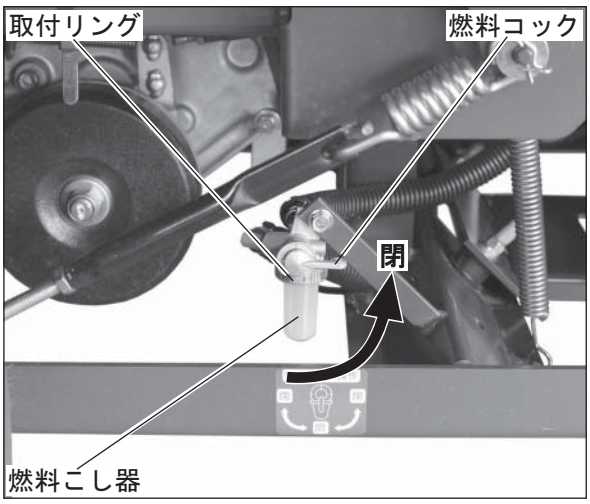
●エンジンを止め、エンジン・マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

●燃料コックが**「開」**になったままでカップを外すと、燃料ホース内の燃料が流れてます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを**「閉」**にしてください。

燃料の排出のしかた

①エンジンを停止します。

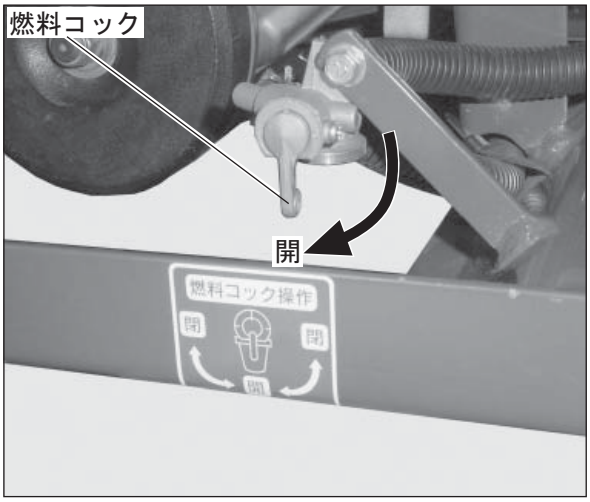
②燃料コックを**「閉」**にします。



③燃料こし器の下に燃料受けを用意します。

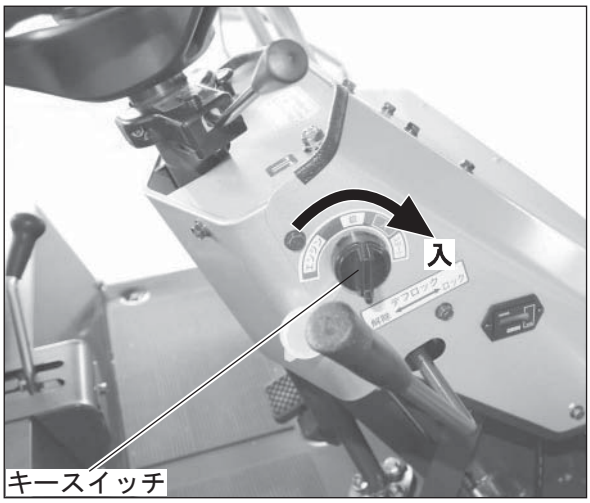
④燃料こし器の取付リングをゆるめて燃料こし器のカップを外し、燃料こし器の燃料を抜きます。（P 60 参照）

⑤燃料コックを**「開」**にします。



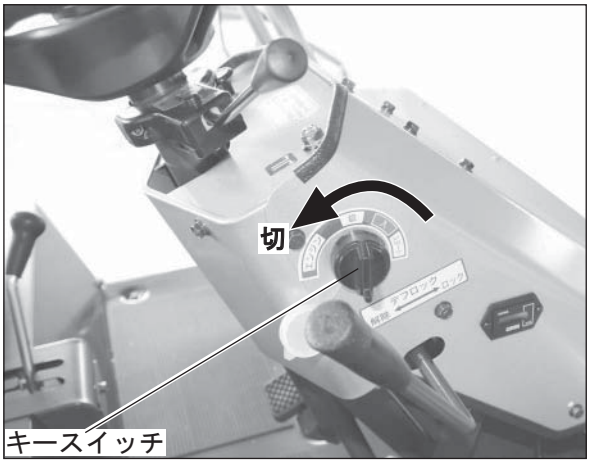
⑥キースイッチを**「入」**位置にします。

※エンジンは始動させないでください。

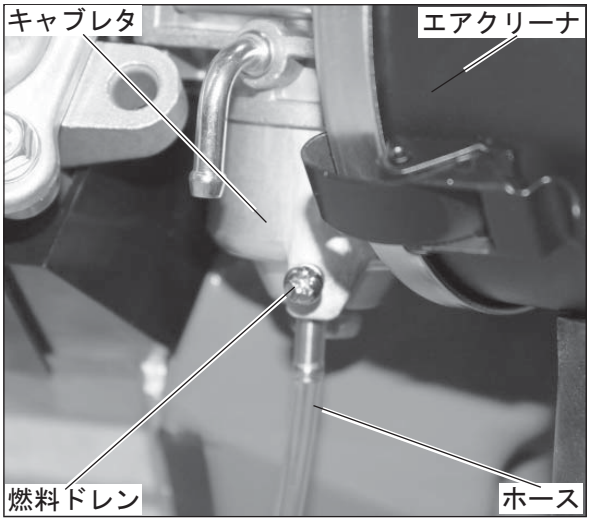


⑦燃料ポンプが作動を開始して、燃料タンク内の燃料が流れ出てきますのでこぼさないように容器に受けてください。

⑧燃料が出なくなったら、キースイッチを**「切」**位置にします。



⑨キャブレタ内の燃料は、キャブレタ下部の燃料ドレンをゆるめて抜取ってください。
（燃料が出てこなくなるまで、容器にこぼさないように受けてください）



※燃料ドレンをゆるめて抜取ります。

⑩燃料の抜取り後は、燃料ドレンを元通り締めてください。

⑪燃料こし器を確実に元に戻します。

［重要］

●ガソリンは１ヶ月以上放置すると「気化」・「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。機械を保管する場合は、必ず①～⑩の要領で燃料タンク・燃料こし器・キャブレタ内のガソリンを抜いてください。

エンジン以外の手入れ

①機体はきれいに清掃しておきましょう。

②不具合箇所は整備しておきましょう。

③各部の給油、注油を必ず行ってください。

④外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

⑤各部のボルト・ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

⑥バッテリは完全充電し、本機から取外し、風通しの良い場所に保管してください。

⑦タイヤは正規の空気圧にしてください。
（74 ページ参照）

⑧格納場所は、周囲に紙などの燃えやすいものがない、雨の掛からない乾燥した場所を選んでください。

⑨荷台を降ろした状態にし、タイヤの下には板を敷き、駐車ブレーキは掛けないで後輪に**「車止め」**をしてください。

［重要］

●バッテリは使わなくても自然放電します。１ヶ月に１度は充電器で完全充電してください。
（65 ページ参照）

長期間格納後の使用

長期（１ヶ月以上）格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

①始業点検を確実に行ってください。

②エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で５分程度、運転してください。

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

●エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。

●荷台を上げて点検、整備をするときは、必ず荷台落下防止金具をセットしてから行ってください。

⚠警告

●点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

●１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

●点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。

●部品の交換、および草・わらくずなどのゴミを取るときは、エンジンが十分に冷えてから行ってください。

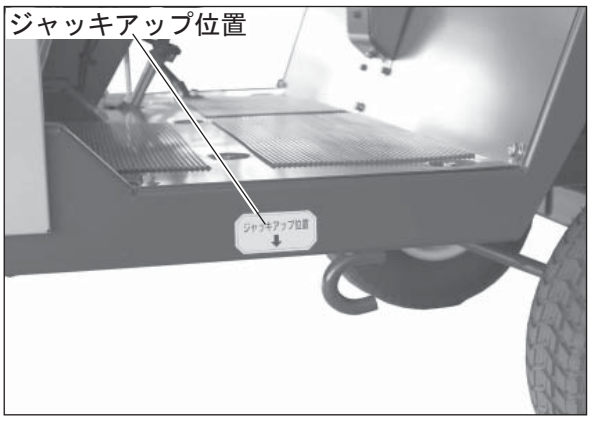
定期点検や整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するために、１年毎に販売店・ＪＡで定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は２年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

ジャッキアップのしかた

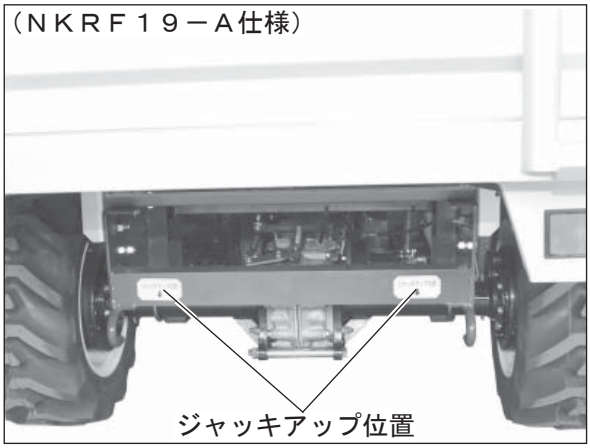
⚠警告

●ジャッキアップをするときは、交通の危険がなく、平坦な安定した場所で、指定された位置にジャッキをセットしてください。守らないと、転倒など機械の故障をまねくおそれがあります。

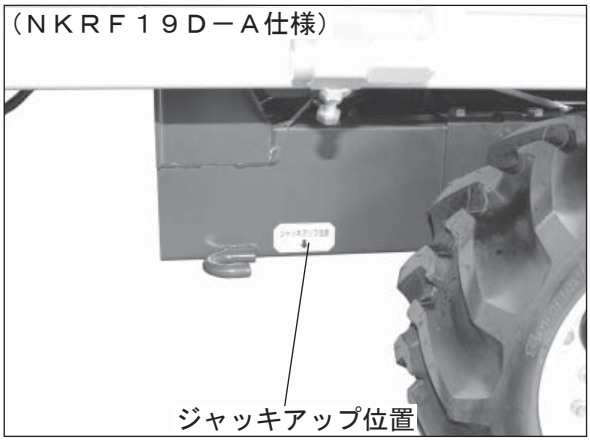
運転席・助手席の下と本体フレーム後端下に銘板で指定した位置（４ヶ所）に確実にジャッキをセットしてください。



（ＮＫＲＦ１９－Ａ仕様）



（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

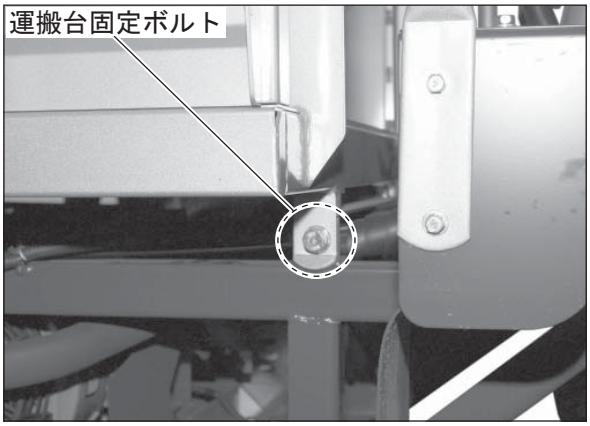


荷台落下防止金具のセットのしかた

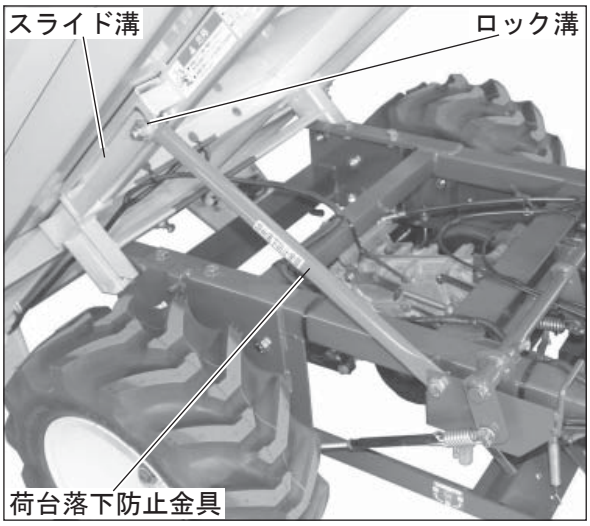
［ＮＫＲＦ１９－Ａ仕様］

固定荷台の荷台下の点検、整備をするときは次の要領で荷台を上げて点検、整備をしてください。

①荷台の前側の下、左右にボルトがあります。ボルトをゆるめて外します。



②荷台を手で持上げます。

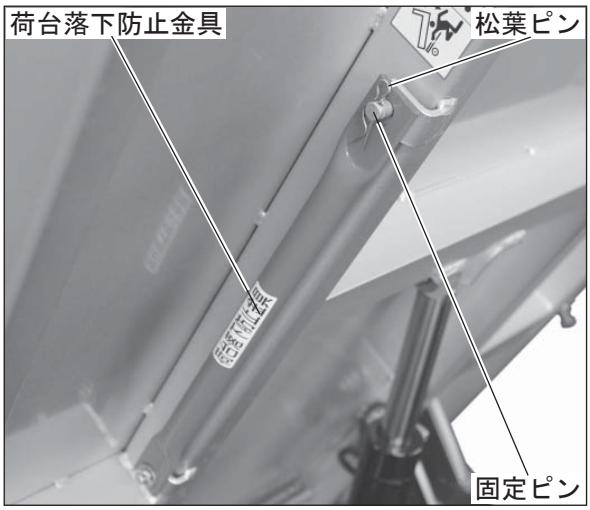


③荷台を持上げると荷台落下防止金具がスライド溝を自動的に動きロック溝に入って荷台を支えます。このとき荷台落下防止金具が確実に溝に入っていることを確認してから点検、整備を行ってください。

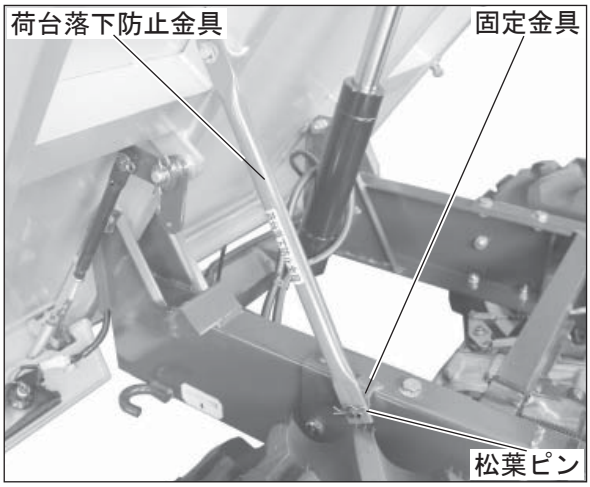
④荷台を降ろすときは、荷台を支えながら、荷台落下防止金具をロック溝から外し、両手で荷台をゆっくり降ろし、取外したボルトを元通りに取付け確実に締付けください。

［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

①荷台落下防止金具を止めてある松葉ピンを取外します。



②荷台落下防止金具を外して、本体フレームの固定金具のピンに荷台落下防止金具を差込んで松葉ピンを取付けて荷台落下防止金具をセットします。





1．定期点検一覧表

（○点検・調整　☆初期交換　●交換）

点検・調整箇所		項目	点検時期（目安）						参照ページ
			始業前	50h 毎	100h 毎	300h 毎	１年	２年	
エンジン	エンジンオイル	油量・汚れ	○	●（初回25時間）					５７
	エアクリーナ エレメントの清掃	汚れ	○						５９
	点火プラグの清掃 ・電極すきま	焼け具合・損耗			○				６４
	排気ガスの色	目視	○						７８
	マフラーの ほこりやゴミ	目視	○						－
本体部	走行ミッション	油量	○	☆	●				５８
	クラッチペダル	作動状態	○						６９
	ブレーキペダル	遊び・効き具合	○						６７
	各レバー類	作動・機能	○						－
	ブレーキシュー	磨耗		○		●			６７
	Ｖベルト	伸び・亀裂	○						６９
	タイヤ	空気圧・亀裂	○						７４
	各スイッチ・ライト	作動・点灯	○						－
	各支点・摺動部	油・グリス		○					－
	各部ボルト・ナット	締付け状態	○						－
	電気配線	接続状態・傷	○				○		６２
	バッテリ	液量・接続	○		○				６５
	各部ワイヤ	外観・伸び	○					●	－
	舵取り装置 ボールジョイント	遊び・締付け状態		○					－
	燃料	量・燃料もれ	○						３３ ６２
	燃料こし器フィルタ	汚れ	○		○				６０
	燃料ホース	接続状態・亀裂	○					●	６２
油圧部	油圧タンク	油質・油量		●（初回25時間）					５９
	油圧ホース	接続状態・亀裂	○						－
	油圧シリンダ	油漏れ	○						－

※エンジンオイルの初回の交換は、必ず 25 時間を目安に行ってください。
※点検時期の時間はアワメータで確認してください。

２．給油箇所一覧表

⚠注意

●給油および点検をするときは安全を確認してから行ってください。

給油箇所	油の種類	給油量	参照ページ
燃料	自動車用無鉛ガソリン（ＪＩＳＫ２２０２相当品）	６．０L	３３
エンジンオイル	ガソリンエンジンオイルＳＥ級以上 ●夏期（15℃以上）……ＳＡＥ３０ ●秋・春期（10℃～ 15℃）……ＳＡＥ２０ ●冬期（10℃以下）……ＳＡＥ１０Ｗ－３０	０．５５L	５７
走行ミッションオイル	ギヤオイル９０番	２．５L	５８
油圧オイル （ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）	油圧作動油　ISO　ＶＧ ４６	目盛６００位置 （0.6L）	５９
グリスニップル	リチューム系一般グリス	適量	５５
各支点・摺動部	ギヤオイルまたは、リチューム系一般グリス	適量	５５

［重要］

●機械にとって潤滑油は人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に作動しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換をしてください。

●給油作業は、ゴミ・水などが入らないよう十分注意して行ってください。

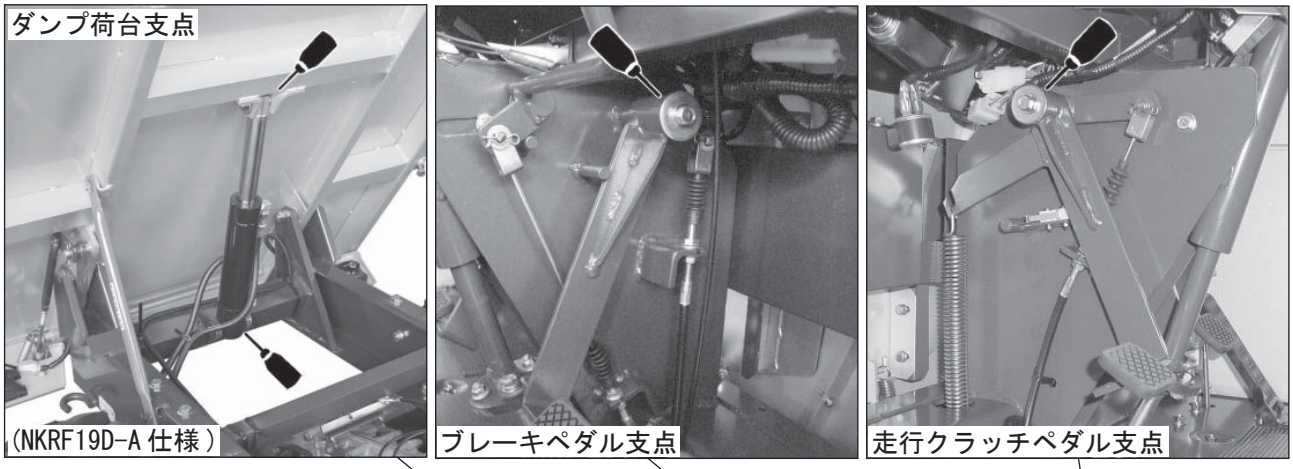
３．各部の注油・グリスアップのしかた

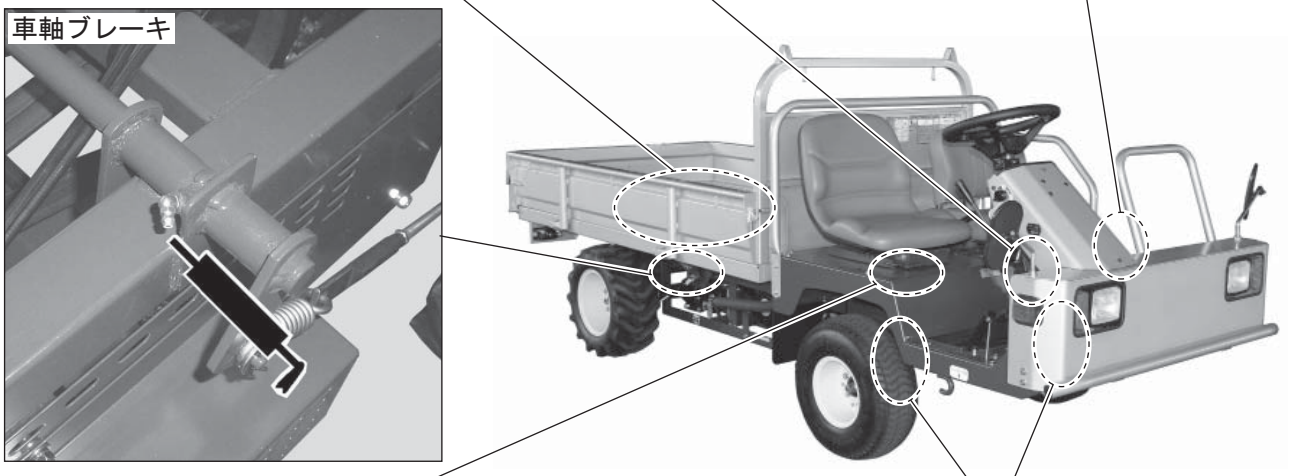
⚠注意

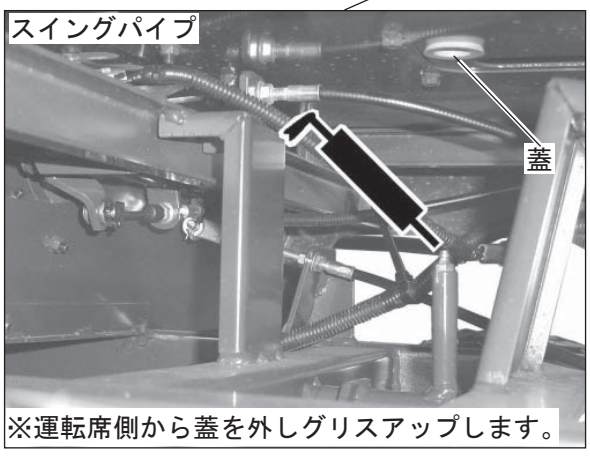
●記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。

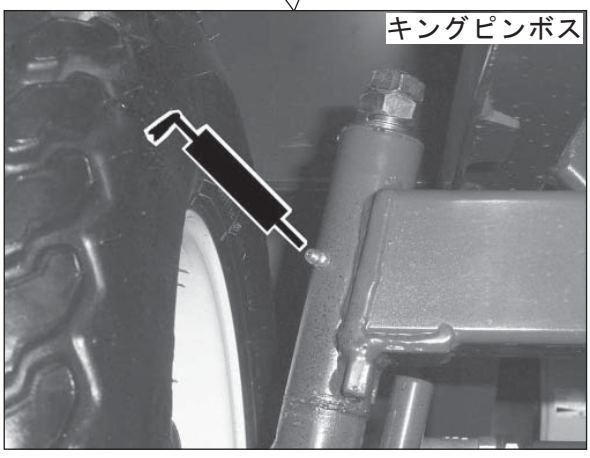
●定期的に油さし・グリスポンプで確実に注油・グリスアップをしてください。

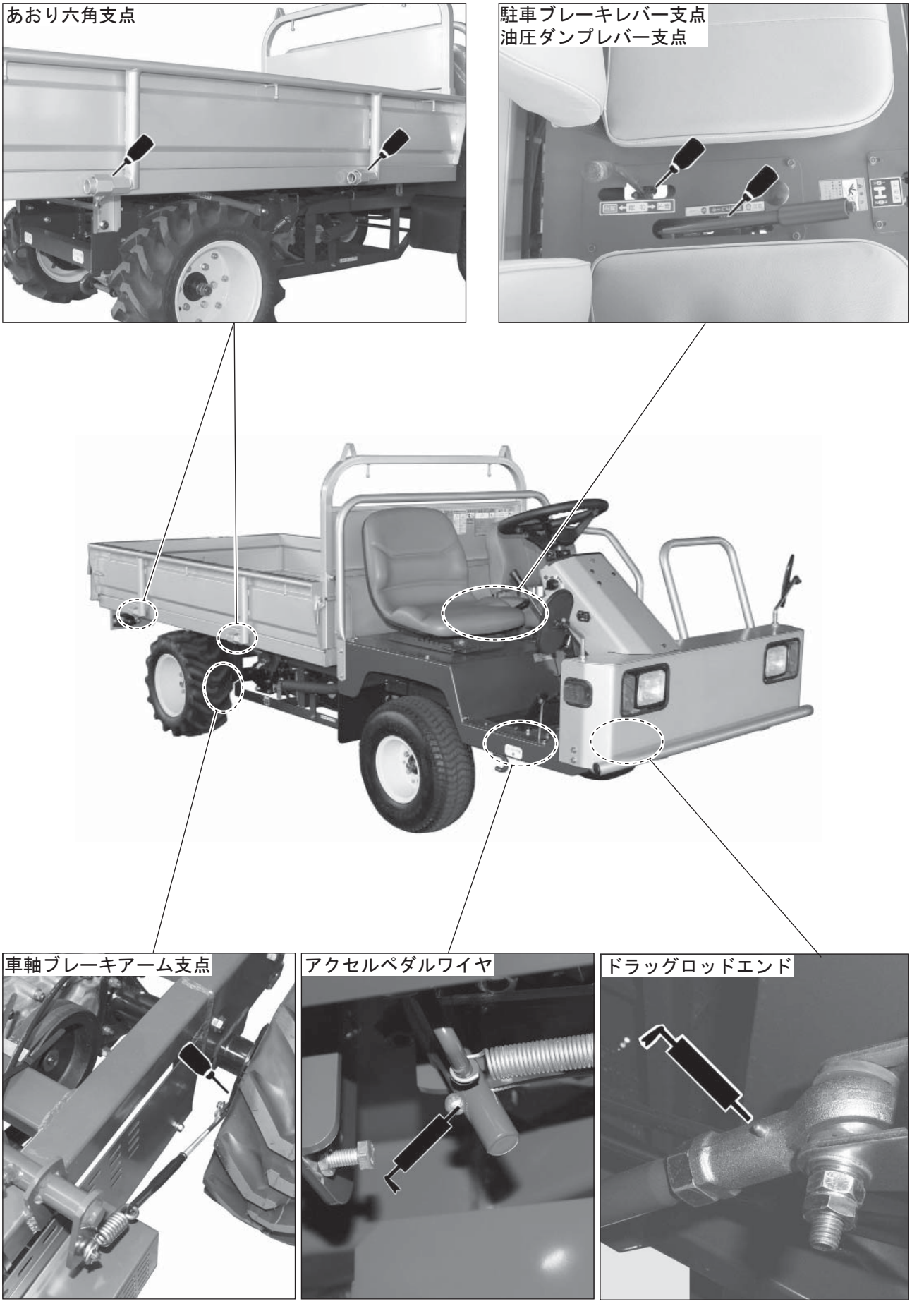
〈凡例〉 注油位置 グリスアップ位置










あおり六角支点
駐車ブレーキレバー支点
油圧ダンプレバー支点
車軸ブレーキアーム支点
アクセルペダルワイヤ
ドラッグロッドエンド

４．各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

［重要］

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店・ＪＡに相談してください。

エンジンオイル

⚠注意

●検油は、ミッション側の検油ゲージで行ってください。運転席側ですると火傷をするおそれがあります。

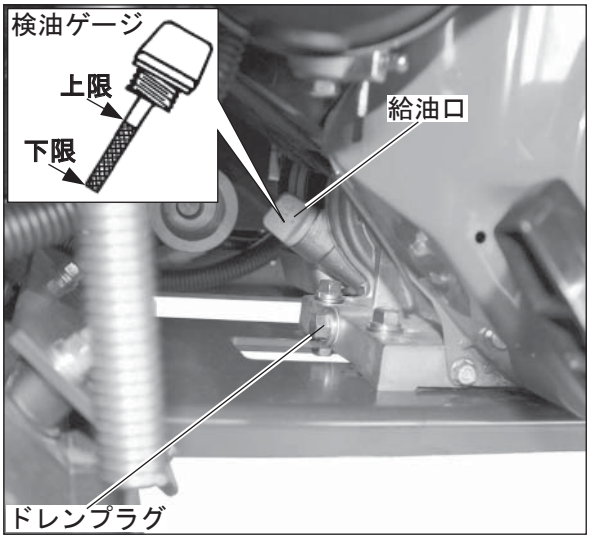
点検・補給

①機械を水平な場所に置きます。

②ミッション側の検油ゲージを外して、検油ゲージに付着したオイルをきれいにふきます。

③検油ゲージをねじ込まないように差込み、再び抜いて検油ゲージの「**下限**」と「**上限**」の間にオイルがあるか調べます。

④エンジンオイルが「**下限**」位置より下の場合は、エンジンオイルを「**上限**」位置まで補給してください。



交換

水平な場所にエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

①ドレンプラグの下に容器を用意してドレンプラグを少しずつ外します。

②給油口の蓋をエンジンオイルが噴出しないように、少しずつ加減をしながらゆるめ、汚れたオイルを容器に流し出します。

③オイルを流し出したら、ドレンプラグを確実（締付トルク＝20 N･m）に締付けてください。

④給油は、給油口より検油ゲージの規定量（0.6L）まで入れてください。

※エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

［重要］

●オイルの量はエンジンを停止して調べてください。

●給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。

●エンジンが熱いうちは行わないでください。特にマフラーが熱くなっていますので、火傷をするおそれがあります。

●熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

●エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが噴き出し衣服などを汚すおそれがあります。

●給油をするオイルは、必ず、規定のオイルを使用してください。

●オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。

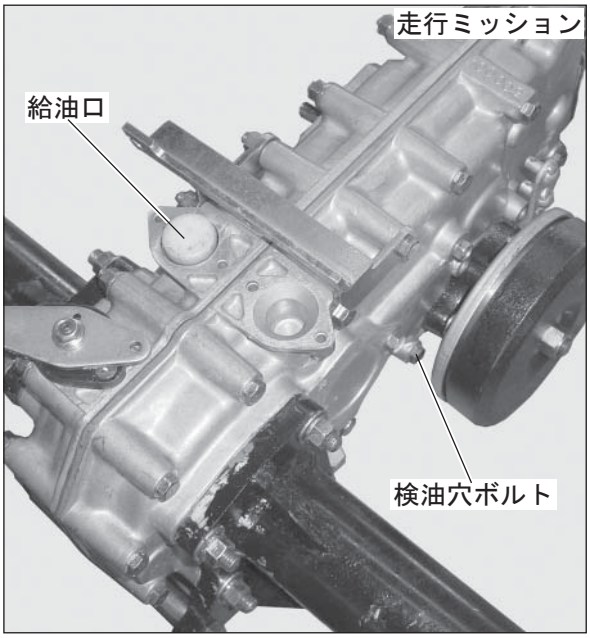
走行ミッションオイル

点検

①油もれのないことを調べてください。

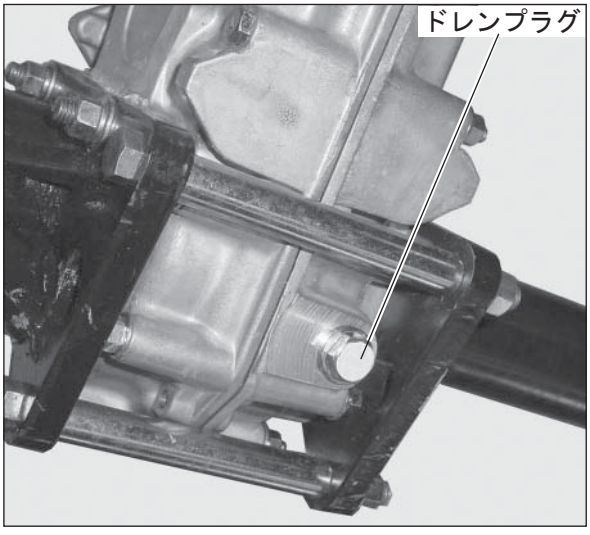
②走行ミッション右側面の検油穴ボルトをゆるめ、オイルが出てくるか調べます。

③検油穴からオイルが出ない場合は、検油穴からオイルが出てくるまで補給をし、検油ボルトを元のように戻して締込み、さらに 0.1L 追加補給をしてください。



交換

①走行ミッション下部のドレンプラグを外して、汚れたオイルを廃油受け皿に流し、オイルが出なくなったらドレンプラグを元のように締込みます。



②検油穴ボルトを外し、ミッションオイルを給油口より給油し、検油穴からオイルが出るのを確認したら、検油穴ボルトを締込み、さらに 0.1L 追加補給をします。

※オイルの規定量は、2.5L ですが、ミッション内部ギヤなどへの付着オイルが約 0.3L あり、補給は約 2.2L になります。

③オイル給油後は、給油口の蓋とドレンプラグを元のように締付けてください。

［重要］

●廃油受け皿に排出したオイル内に鉄粉などが混入している場合は、ギヤの磨耗などミッションの破損の前兆であり、走行ミッションの分解チェックを要します。お買上げいただいた販売店・ＪＡにご相談ください。

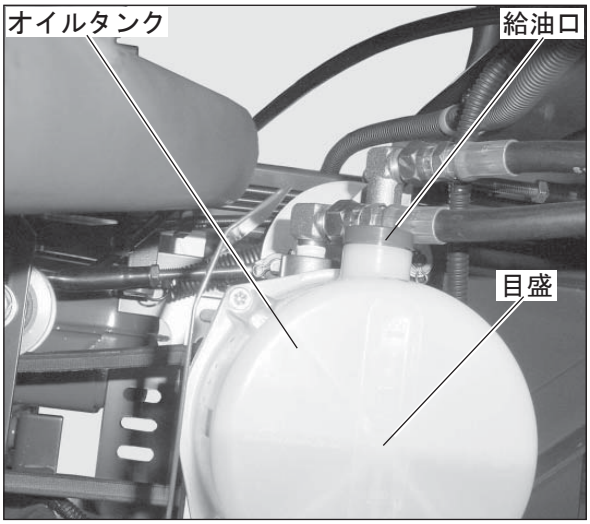
油圧ポンプオイル

［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

点検

油もれのないことを確認してください。

荷台を降ろした状態で油圧タンクの目盛を確認してください。目盛６００位置（0.6L）より少なかったら補充してください。



交換

オイルタンクを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は目盛600位置（0.6L）まで入れてください。交換につきましてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

［重要］

●荷台をダンプさせたときと、降ろしたときでは、シリンダー内の油量が異なります。油量は必ず荷台を降ろした状態で点検してください。

●油量が多いと給油口のエアー抜き穴より噴き出る場合があります。

●作動油の早期減少は異常ですから、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検、整備を受けてください。

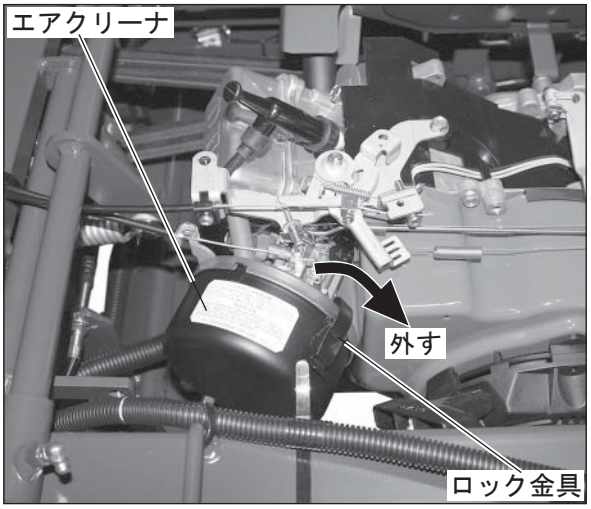
５．エアクリーナの掃除・交換のしかた

⚠警告

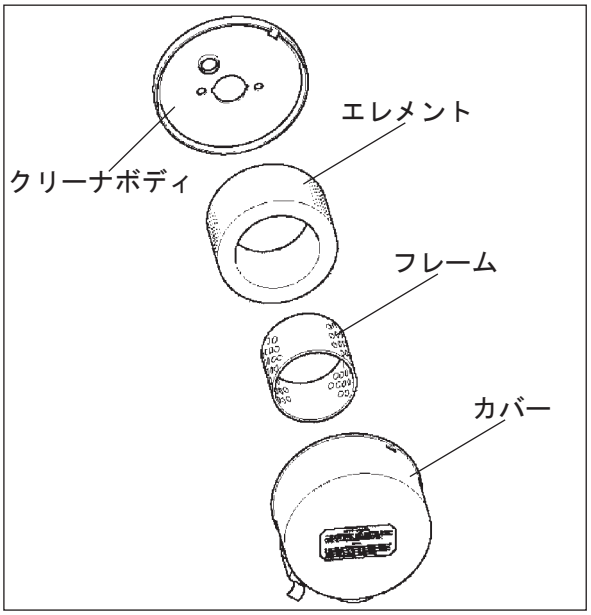
●エアクリーナのカバーを外したまま始動をしないでください。守らないと逆火により、火災が発生するおそれがあります。

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

①エアクリーナのロック金具を外して、カバーを取外します。



②中のエレメントを取外して、灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。



③エレメントを硬くしぼって取付け、カバーを元通りに確実に取付けてください。

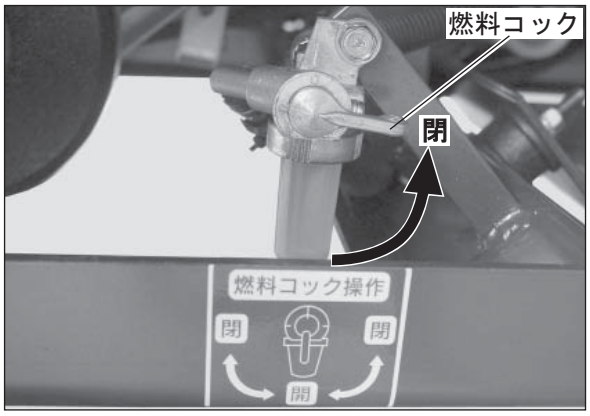
６．燃料こし器の掃除のしかた

⚠危険

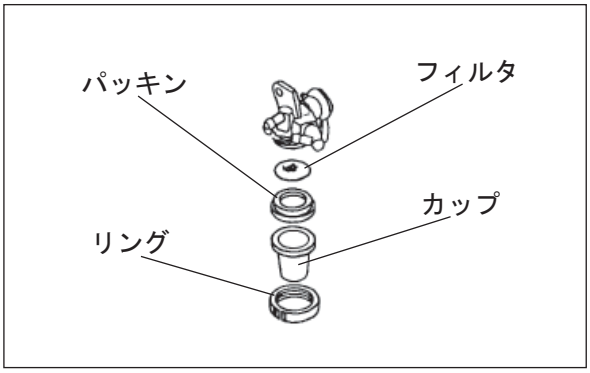
●燃料コックが**「開」**になったままで燃料こし器を外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「閉」にしてください。

①燃料コックを**「閉」**にします。

②燃料こし器取付リングをゆるめて燃料こし器を外します。



③こし器のゴミや水を取除き、フィルタの目詰まりを掃除します。



④燃料こし器を元に戻して確実に取付けます。

［重要］

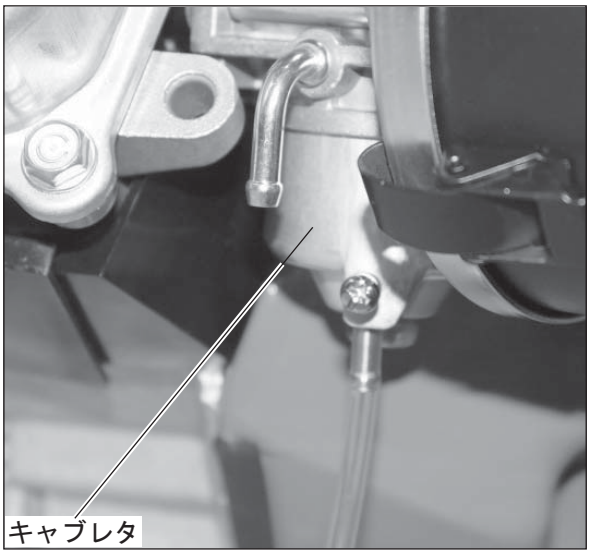
●ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。（Ｐ 49 参照）

７．キャブレタの点検のしかた

キャブレタに燃料もれ・にじみがあった場合は、お買い上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

［重要］

●燃料ホース、ゴムパッキンなどは長年の保管により劣化します。ご使用のない場合も、使用前には必ず点検をしてください。



８．燃料フィルタと燃料ポンプの交換のしかた

⚠注意

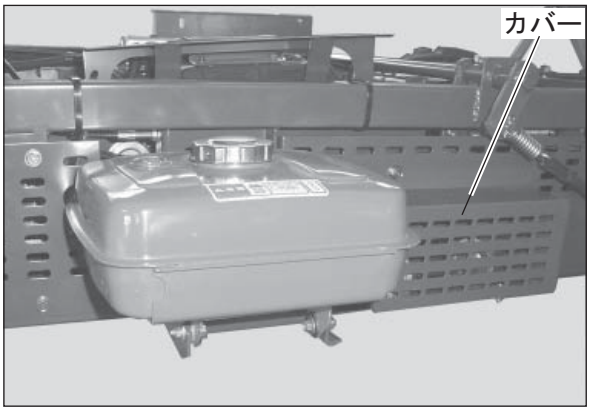
●燃料フィルタ内のろ紙の周囲全体にゴミなどが付着しますと、燃料の供給が悪くなり、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

●燃料ポンプ内の部品の寿命がくると、ポンプは正常な働きをせずエンジンの出力低下や故障の原因になります。

	交換時間（目安）
燃料フィルタ	４００時間
燃料ポンプ	１，０００時間

①**「燃料抜きの要領」**（P 49 参照）の方法で燃料を抜きます。

②カバーを外します。

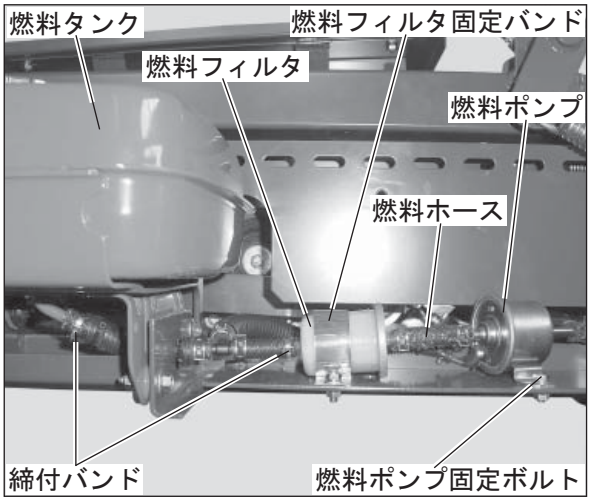


③燃料タンク出口の燃料ホースの締付バンドを移動させて外します。

④燃料フィルタ固定バンドのボルト、または燃料ポンプ固定ボルトをゆるめて外します。

⑤交換したい燃料フィルタ、または燃料ポンプの燃料ホースを外します。

⑥交換する燃料フィルタ、または燃料ポンプを外して新しい物と交換してください。



⑦新しく交換した燃料フィルタ、燃料ポンプに燃料ホースを元のように確実に取付けそれぞれの締付バンドで固定してください。

⑧燃料タンク出口に燃料ホースを確実に差込み締付バンドで固定します。

⑨カバーを取付けます。

９．燃料ホース・電気配線の点検のしかた

⚠危険

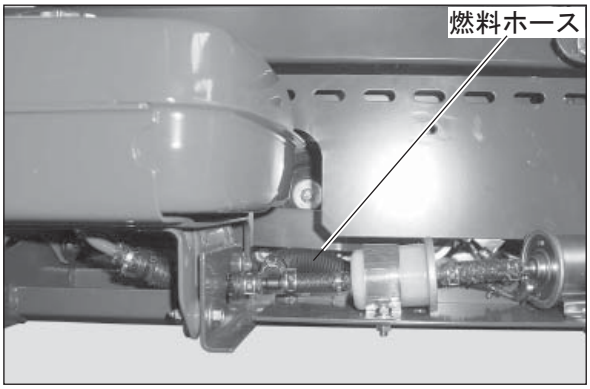
●燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると､火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

⚠注意

●配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけではなくショート（短絡・漏電）の原因となり、火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は早めに交換・修理をしてください。

●バッテリ、電気配線、およびマフラーやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。守らないと、火災の原因となります。

①燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。



②電気配線コードが他の部品に接触したり、被覆のはがれや傷、締付バンドがゆるんでいないか、または接続部のゆるみがないか点検してください。

※燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店・ＪＡで修理をしてください。

※燃料ホースは傷んでいなくても２年毎に交換するようにしてください。

※電気配線コードは１年毎に定期点検を受けてください。

［重要］

●バッテリ、エンジン回りの電気配線、電装部品などに圧力水を掛けないでください。電気部品の故障の原因となります。

10．電球（バルブ）の交換のしかた

⚠警告

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっていますので、交換しないでください。やけどをするおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路などを分解をしないでください。感電により、重大な傷害、または死亡のおそれがあります。

●電球のガラス部は素手で触れないでください。プラスチック部、または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりしないでください。球切れや破裂することがあります。

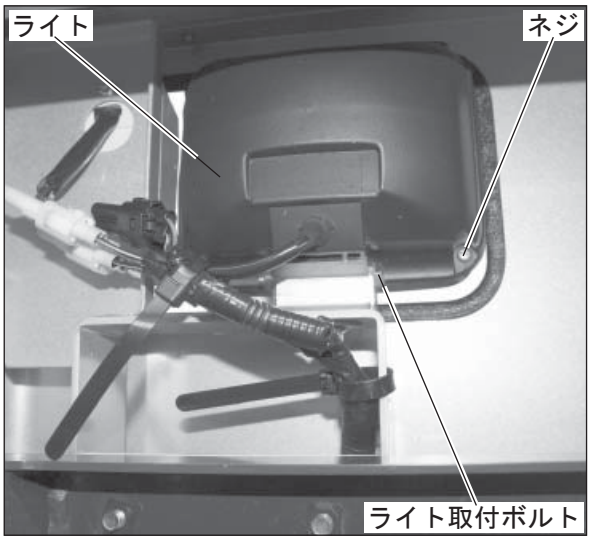
●電球や電球を固定するための部品はしっかり取付けください。

※交換については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

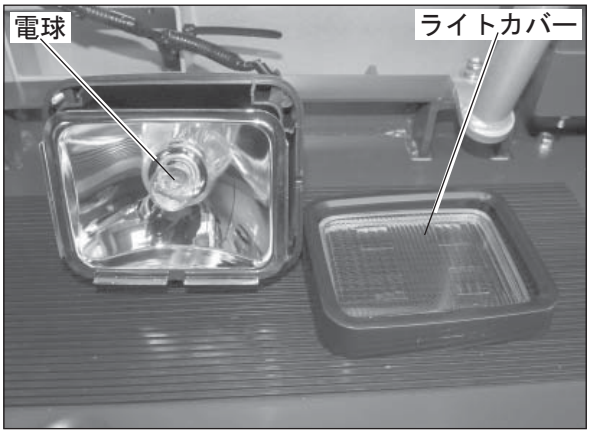
ヘッドライト

①ライトの裏側からライト取付ボルトをゆるめて外します。

②ライトカバーのネジ（４本）ゆるめて外します。



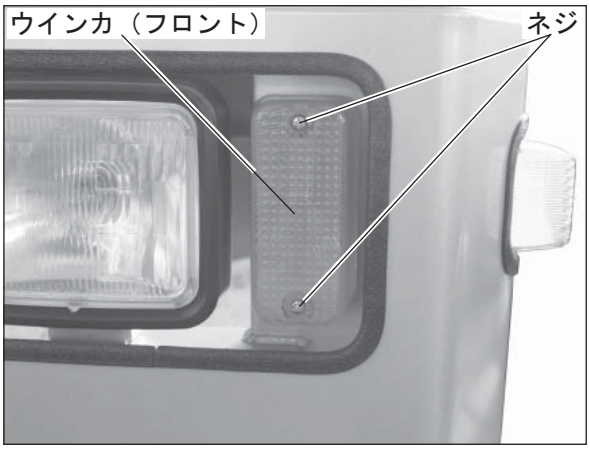
③電球を左に回してゆるめて外し、新しい電球を取付けてください。



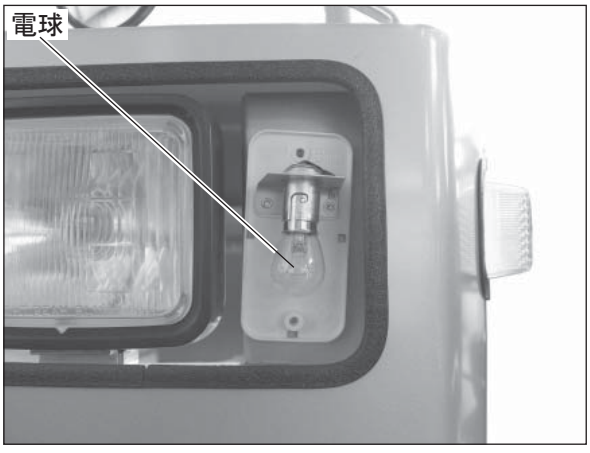
④外したときの逆の手順で元通りに取付てください。

ウインカ（フロント）

①ウインカ（フロント）カバーの取付ネジをゆるめて外します。



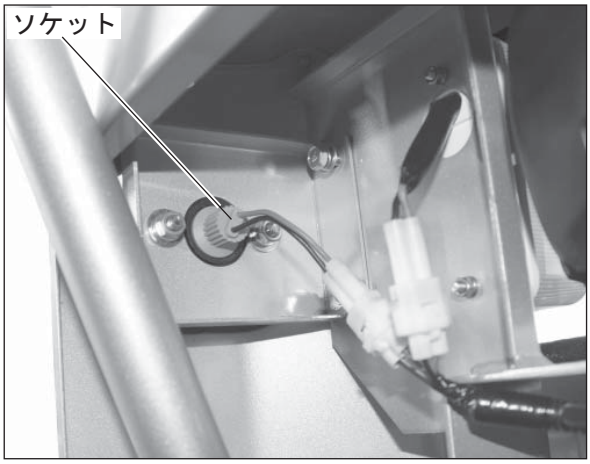
②電球を左に回してゆるめて外し、新しい電球を取付けてください。



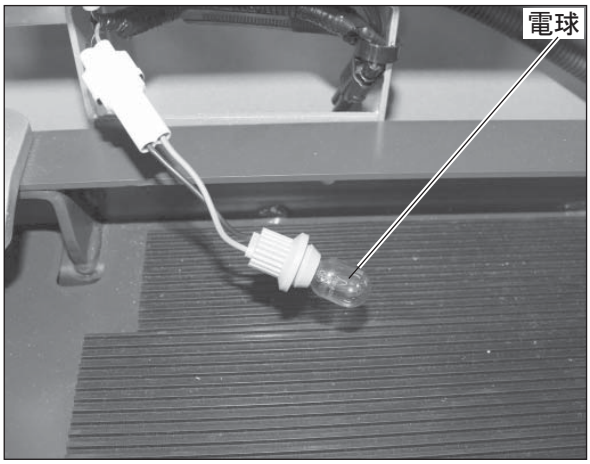
③外したときの逆の手順で元通りに取付てください。

ウインカ（サイド）

①ウインカ（サイド）のソケットを左に回して引抜きます。



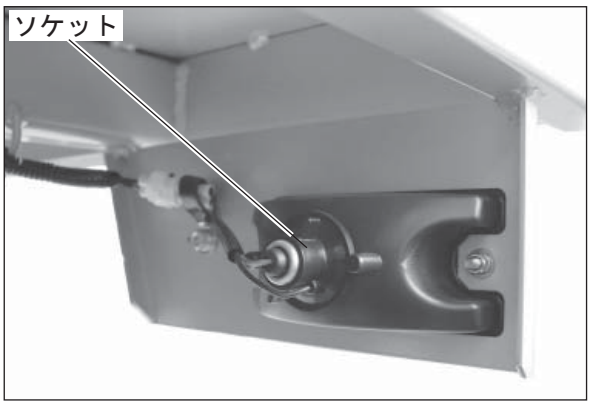
②電球を左に回してゆるめて外し、新しい電球を取付けてください。



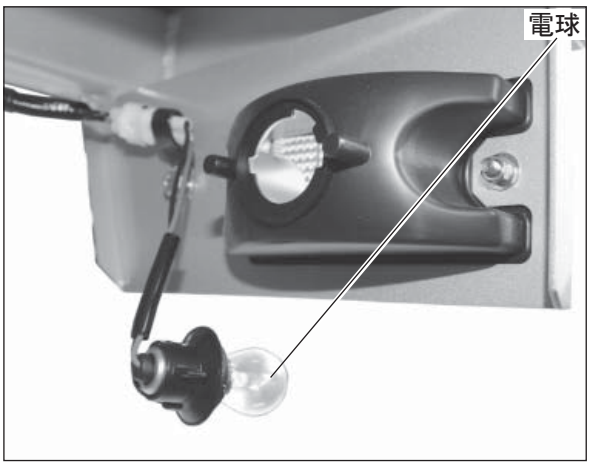
③外したときの逆の手順で元通りに取付てください。

ウインカ（リヤ）

①ウインカ（リヤ）のソケットを左に回して外します。



②電球を左に回してゆるめて外し、新しい電球を取付けてください。



③外したときの逆の手順で元通りに取付てください。

［重要］

●電球が正しい位置に確実に取付けられていることを確認してください。

●キースイッチを**「入」**位置にし、ウインカスイッチを右側、または左側に操作して交換した電球が点滅するか、確認してください。

●使用電球（バルブ）一覧表

No.	品名	電球ワット数	個数
1	ヘッドライト	１２Ｖ１８．４Ｗ	2
2	ウインカ（ﾌﾛﾝﾄ）	１２Ｖ２１Ｗ	2
3	ウインカ（ｻｲﾄﾞ）	１２Ｖ１８Ｗ	2
4	ウインカ（ﾘﾔ）	１２Ｖ２７Ｗ	2

11. 点火プラグの点検のしかた

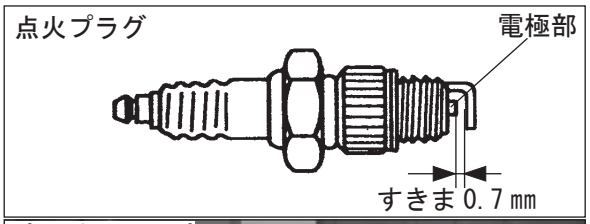
⚠注意

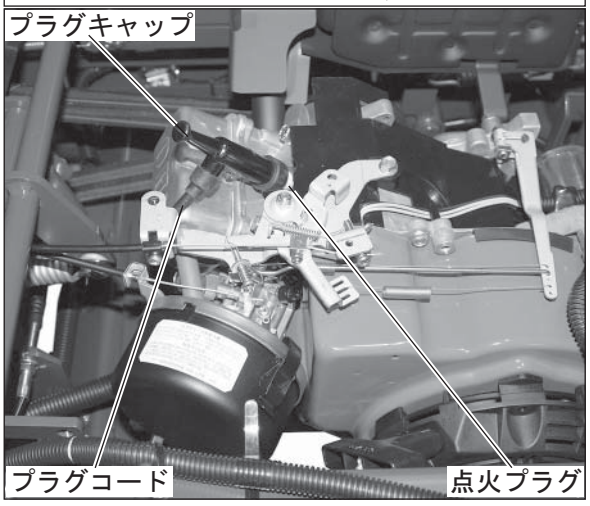
●エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

①定期的に点火プラグを取外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。

②電極部のすきまは0.7㎜に調整してください。

※始動不良、運転中の失火は点火プラグの電極すきまが大きすぎても少なすぎても、点火プラグが汚れたときにもおこります。





※点火プラグは締付トルク２０Ｎ・ｍで締付けてください。

［重要］

●電極部の清掃、電極すきまの調整をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

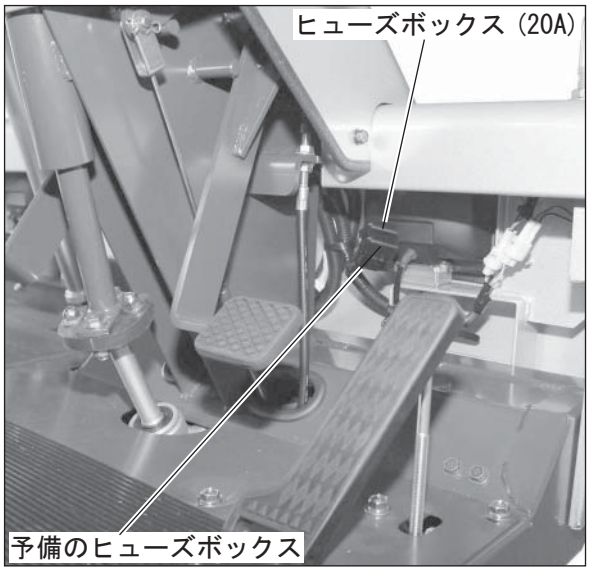
●電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

●ゴムキャップ・プラグコード・プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

12. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

デフロックレバー側のパネル下にヒューズボックス（20Ａ）があります。ヒューズが切れた場合は必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズを付けると火災のおそれがあります。



※ヒューズが切れた場合、予備のヒューズボックスにヒューズ（20A）が収納されていますので、ヒューズ切れの場合は交換してください。

［重要］

●ヒューズを交換するときは、バッテリの㊀側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

●ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

13. バッテリの点検、整備のしかた

⚠危険

●バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。

●バッテリ液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし、身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。

●バッテリからコードを外すときは、必ず㊀側から外し、取付けるときは、必ず㊉側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

●バッテリ㊉ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートすると火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

●バッテリ充電中は、ガスが発生しますので風通しの良い場所で行ってください。

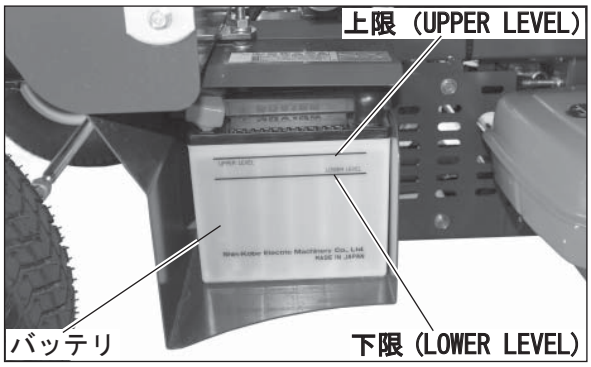
⚠警告

●バッテリ液は液面レベルの**「上限（UPPER LEVEL）」**と**「下限（LOWER LEVEL）」**の間にあることを確認してください。もし**「下限（LOWER LEVEL）」**以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

バッテリ液点検

作業前には、各槽のバッテリ液がバッテリケース液面レベルの**「上限（UPPER LEVEL）」**と**「下限（LOWER LEVEL）」**の間にあるか確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。

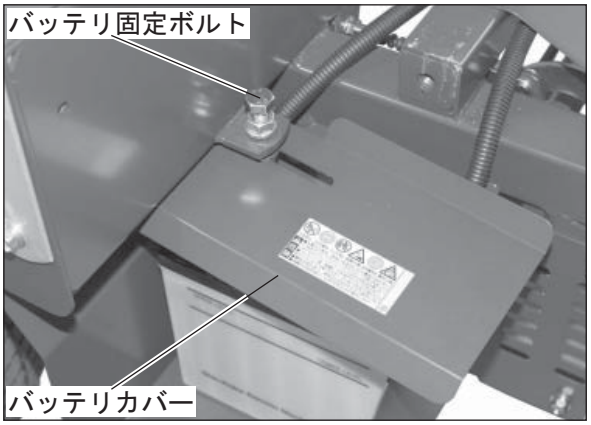
指定バッテリ	３０Ａ１９Ｒ



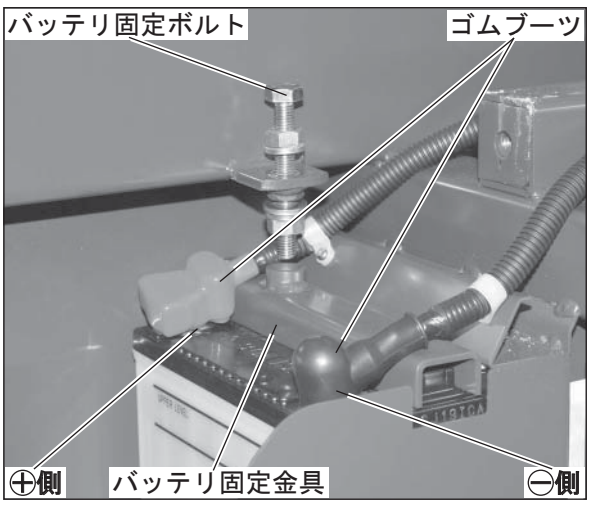
※蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。

補充電のしかた

①バッテリ固定ボルトゆるめて、バッテリカバーを外します。



②バッテリを固定しているバッテリ固定金具を燃料タンク側にスライドさせて取外し、㊀側のコードを取外し、次に㊉側のコードを取外します。



③充電は、バッテリの㊉を充電器の㊉側に、バッテリの㊀を充電器の㊀側に接続して行いますが、詳しくは、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

※なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

④バッテリを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリ液がこぼれないようにしてください。
長期格納時は、バッテリの㊀側のコードを取外すか、バッテリを本機から取外し、日光が当たらない、乾燥した場所に保管してください。

［重要］

●バッテリ液は、常に規定量を保ってください。

●バッテリ液をバッテリケース液面レベルの「上限（UPPER LEVEL）」を超えるほど入れますと、使用中に液もれし、本機を腐食させることがありますので､補給するときは､液面レベル「上限（UPPER LEVEL）」を超えないように注意してください。

●寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなってきましたら、補充電を行ってください。また、２週間以上運転しないと、バッテリが放電してセルスタータでの始動ができない場合があります。このときにも補充電をしてください。

●本機を長時間使用しないときは、最低１ケ月に１回は補充電を行ってください。バッテリが長持ちします。

●取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリ端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。

●バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

●環境保全のため、交換した古いバッテリは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。

14. ブレーキペダルの調整のしかた

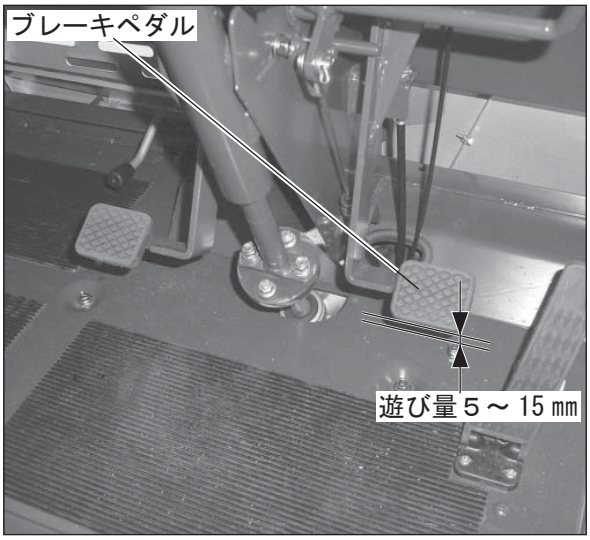
⚠警告

●ブレーキ調整を行う際は、ブレーキが解除の状態になりますので水平な場所で車止めをして行ってください。守らないと機体が自然に動きだし、思わぬ事故がおき大変危険です。

点検

①駐車ブレーキレバーを「**解除**」位置にします。

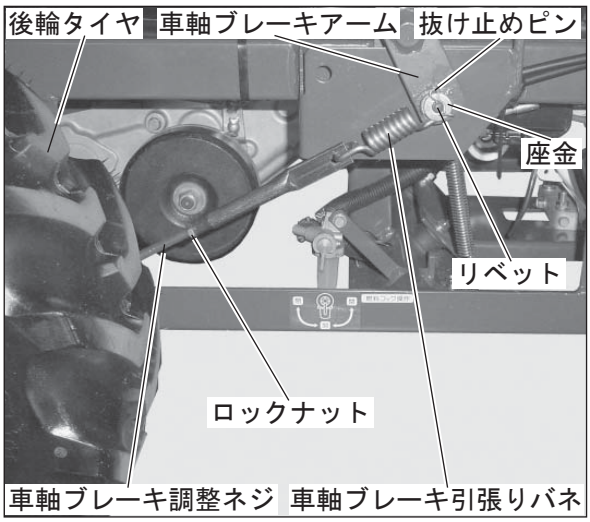
②ブレーキペダルの遊び量（５～15㎜）を調べてください。



車軸ブレーキの調整

①駐車ブレーキレバーを「**解除**」位置にします。

②後輪タイヤの横にある左右の車軸ブレーキ調整ネジに連結している車軸ブレーキ引張りバネを座金と抜け止めピンを外して車軸ブレーキアームから外し、車軸ブレーキ調整ネジのロックナットをゆるめます。



③車軸ブレーキ引張りバネのバネを持ってブレーキが効く方向に引張り、車軸ブレーキ引張りバネのフック部が車軸ブレーキアームのリベットにすきまがなく入るように長さを調整します。

④車軸ブレーキ調整ネジを２回転伸ばす方向に回してから車軸ブレーキアームのリベットに座金と抜け止めピンを取付けます。

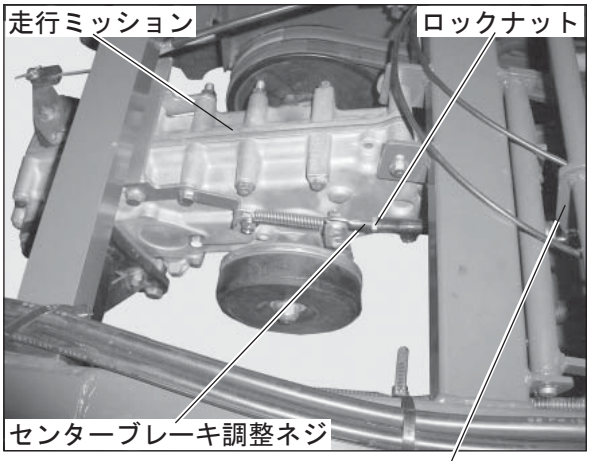
⑤反対側の車軸ブレーキ調整ネジも同様に調整します。

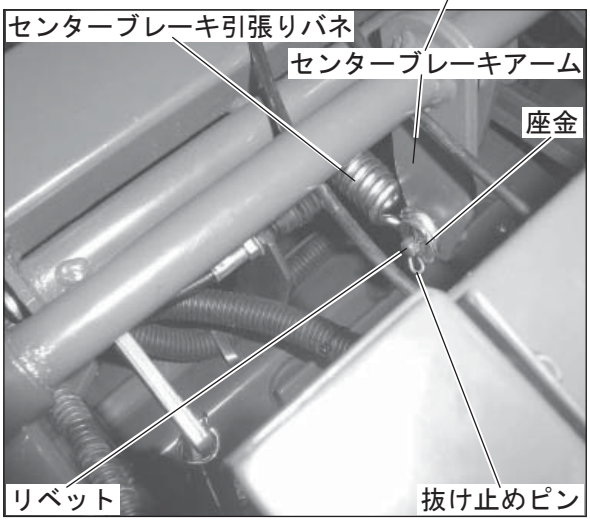
※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

センターブレーキの調整

①駐車ブレーキレバーを**「解除」**位置にします。

②走行ミッションのセンターブレーキ引張りバネを座金と抜け止めピンを外してセンターブレーキアームから外し、センターブレーキ調整ネジのロックナットをゆるめます。





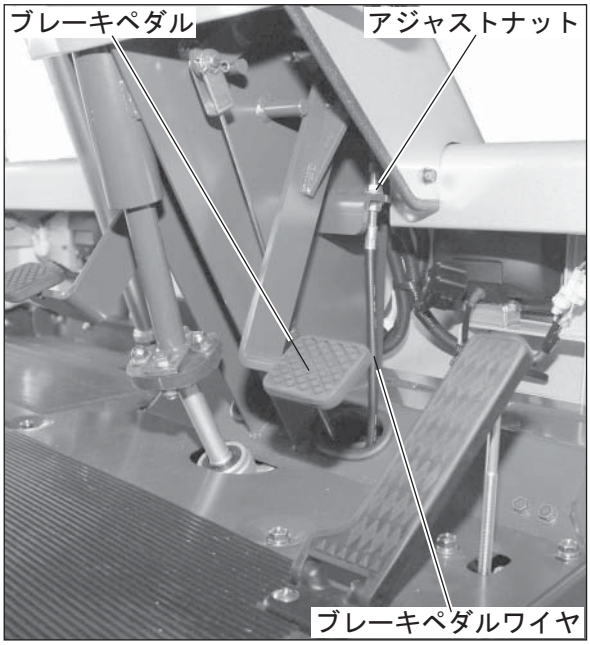
③センターブレーキ引張りバネを持ってブレーキが効く方向に引張り、センターブレーキ引張りバネのフックがセンターブレーキアームのリベットにすきまがなく入るように長さを調整します。

④センターブレーキ調整ネジを２回転伸ばす方向に回してからセンターブレーキアームのリベットに座金と抜け止めピンを取付けます。

※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

ブレーキペダルの調整

①ブレーキペダル遊び量が５～15㎜になるようにブレーキペダルワイヤのアジャストナットをゆるめ調整します。



②ブレーキペダルのアジャストナットを確実に締付けてください。

※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

ブレーキペダル調整後の注意

●ブレーキペダルの調整を行ったあとはエンジンを始動せず駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、主変速レバーを「N（中立）」位置の状態で機体を押して動くことを確認してください。

15. 駐車ブレーキレバーの調整のしかた

⚠警告

●駐車ブレーキレバーの調整は、必ずブレーキペダルの調整をしてから行ってください。守らないと、ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かず、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

●ブレーキ調整を行う際は、ブレーキが解除の状態になりますので水平な場所で車止めをして行ってください。守らないと機体が自然に動きだし、思わぬ事故がおき大変危険です。

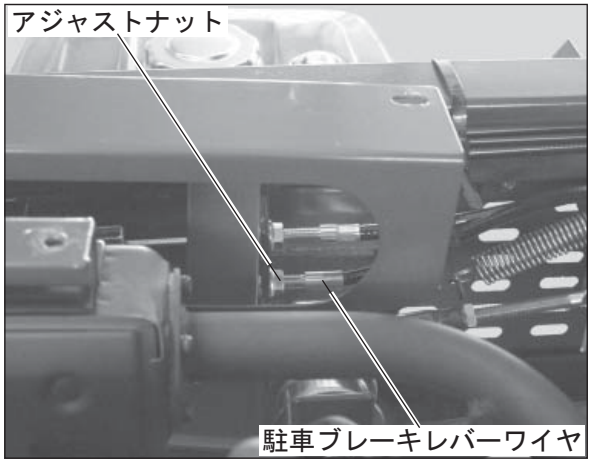
点検

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ４～６ノッチで止まるか確認してください。

調整

①「**12. ブレーキペダルの調整のしかた**」（Ｐ67参照）により、先にブレーキペダルの調整を行ってください。

②駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ４～６ノッチで止まるようにエンジン左側にある駐車ブレーキレバーワイヤのアジャストナットで調整します。



③駐車ブレーキレバーワイヤのアジャストナットを確実に締付けます。

※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

駐車ブレーキレバー調整後の注意

●駐車ブレーキレバーの調整を行ったあとはエンジンを始動せず駐車ブレーキレバーを「**解除**」位置にし、主変速レバーを「**N（中立）**」位置の状態で機体を押して動くことを確認してください。

16. クラッチペダルの調整のしかた

⚠警告

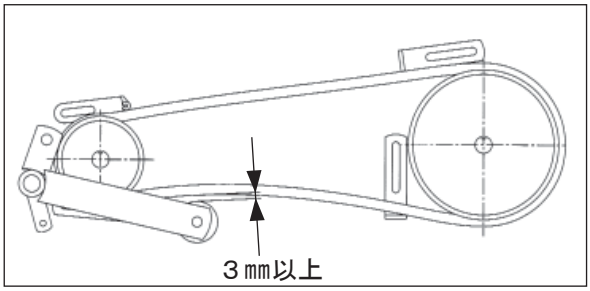
●調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業をしてください。

●荷台下の点検、調整を行う場合は、必ず荷台落下防止金具をセットしてください。

●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、ＶベルトとＶプーリとのスリップをおこすなど、事故につながり大変危険です。

クラッチ切れの点検

クラッチペダルを一杯に踏込んだとき、Ｖベルトとテンションローラが離れているか（３㎜以上）確認してください。



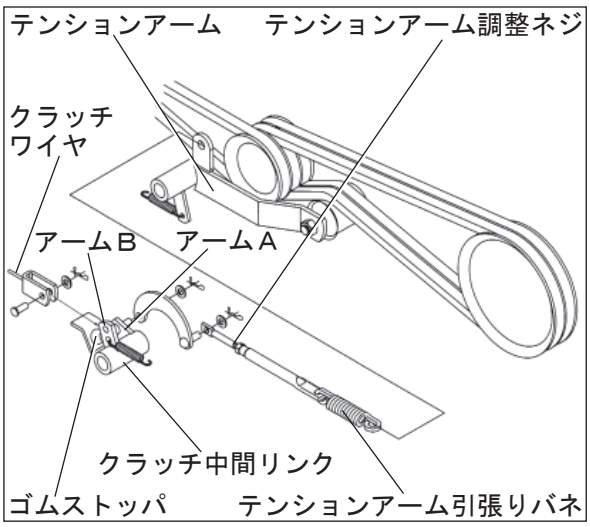
Ｖベルトのスリップ点検

①「**クラッチ入**」のとき、テンションアームを引張っているテンションアーム引張りバネの全長が2.5～３㎜伸びて引張っているか確認してください。引張りバネの張りすぎは、クラッチ切れの不良になりますので、適正な引張りバネの伸びにしてください。

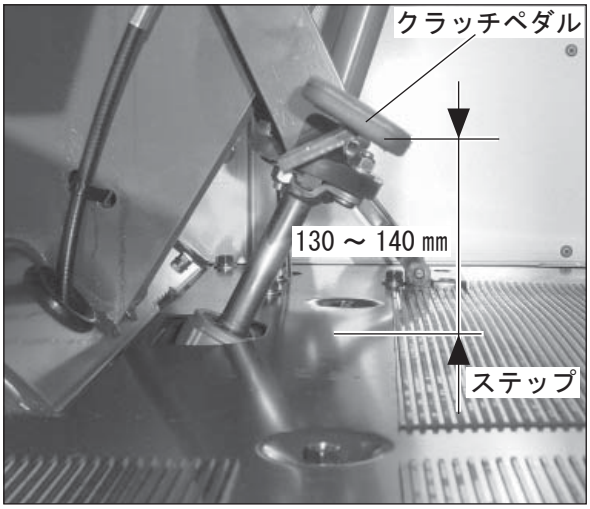
テンションアーム引張りバネ



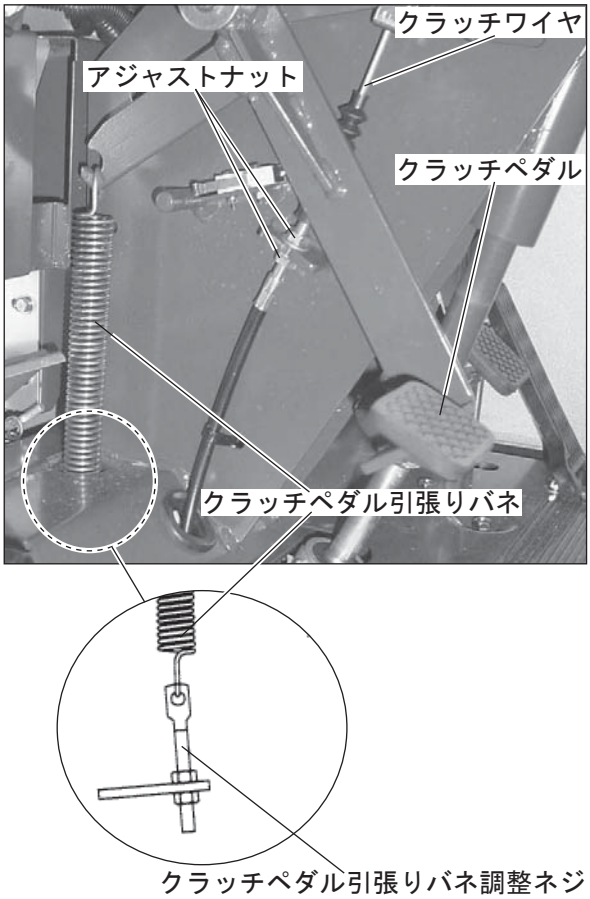
②「**クラッチ入**」の時のテンションアーム引張りバネを適正な長さに調整ネジで調整します。このときにクラッチ中間リンクのアームＢがゴムストッパに当たっているか確認してください。



③クラッチペダルの高さがステップより 160 ㎜以上になったときにクラッチ中間リンクのアームＢがゴムストッパーに当たるようにクラッチワイヤでクラッチペダル高さを 130 ～ 140 ㎜になるように調整します。



④クラッチペダルを一杯に踏込んでも、Ｖベルトとテンションローラが離れない場合は、クラッチワイヤのアジャストナットをゆるめてクラッチワイヤをゆるめ、クラッチペダルのペダル部をステップ面から離す方向に調整し、クラッチペダルのストロークを多くします。



※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

クラッチペダル調整後の注意

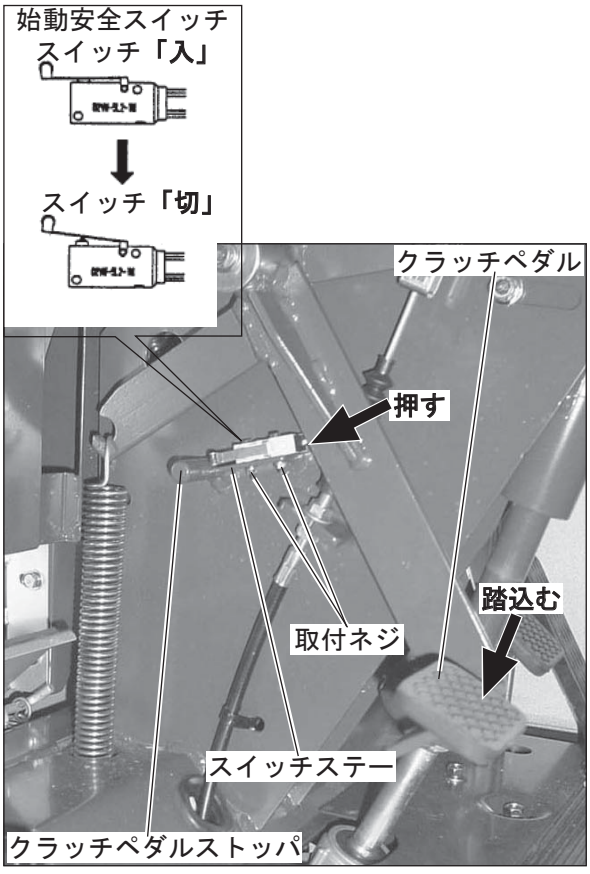
●クラッチペダルの調整後は、クラッチペダルを踏込んで確実にクラッチが切れていることを確認してください。

17. クラッチペダル部 始動安全スイッチの 調整のしかた

始動安全スイッチの調整不良・故障により、クラッチペダルを踏込んでもエンジンが始動しなかったり、クラッチペダルを踏まなくてもエンジンが始動する場合に調整・交換をします。

調整

①クラッチペダルを一杯踏込んでクラッチペダルストッパにクラッチペダルが当たって止まっているとき、クラッチペダルの側面に押されて始動安全スイッチが「入」になっていることを確認してください。



②クラッチペダルから足を放したとき、クラッチペダル側面からスイッチが離れ、始動安全スイッチが「切」になることを確認してください。

③調整が必要な場合は、スイッチステーの取付ネジをゆるめて調整してください。

※故障の場合は交換をしてください。

※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

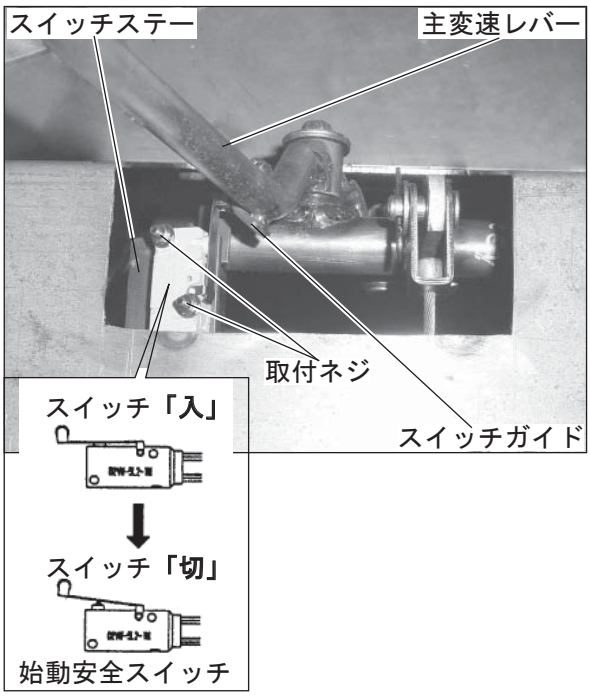
18. 主変速レバー部 始動安全スイッチの 調整のしかた

始動安全スイッチの調整不良・故障により、主変速レバーが「Ｎ（中立）」位置にあるのにエンジンが始動しなかったり、「Ｎ（中立）」位置以外にあるのにエンジンが始動する場合に調整・交換をします。

調整

①チェンジガイド前面のチェンジガイドカバーの取付ネジを外し、チェンジガイドカバーを取外します。

②主変速レバーが「Ｎ（中立）」位置にあるとき主変速レバーのスイッチガイド側面に押されてスイッチが「入」になっていることを確認してください。



③主変速レバーを「前進１」位置、または「後進Ｒ」位置に操作したときに、主変速レバーの始動安全スイッチが「切」になることを確認してください。

④調整が必要な場合は、スイッチステーの取付ネジをゆるめて調整してください。

※故障の場合は交換をしてください。

⑤調整が終わったらチェンジガイドカバーを元のように取付けてください。

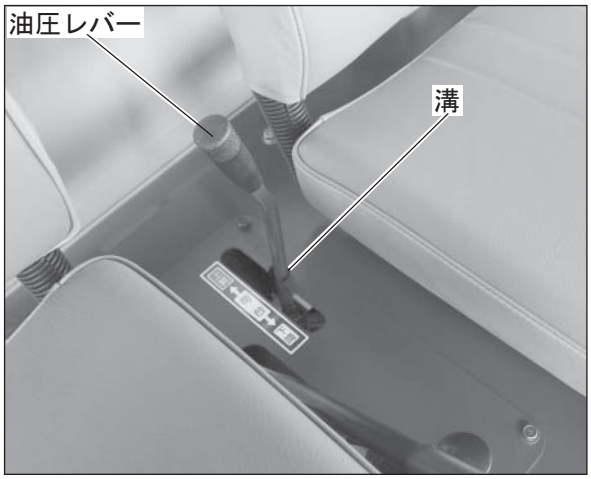
※調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

19. 油圧レバーの調整のしかた

［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

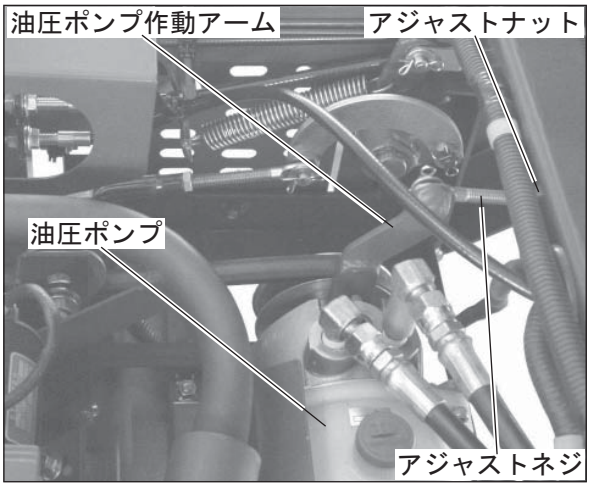
点検

油圧レバーを操作後、手を放したとき、油圧レバーが**「中立」**になり、ガイド穴の中立溝に入ることを確認してください。



調整

①油圧ポンプの作動アームに連動さてれいるアジャストネジのアジャストナットをゆるめて調整します。



②調整後は、アジャストナットを確実に締め込んでください。

※調整については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

20. 油圧ポンプ、駆動ベルトの張り調整のしかた

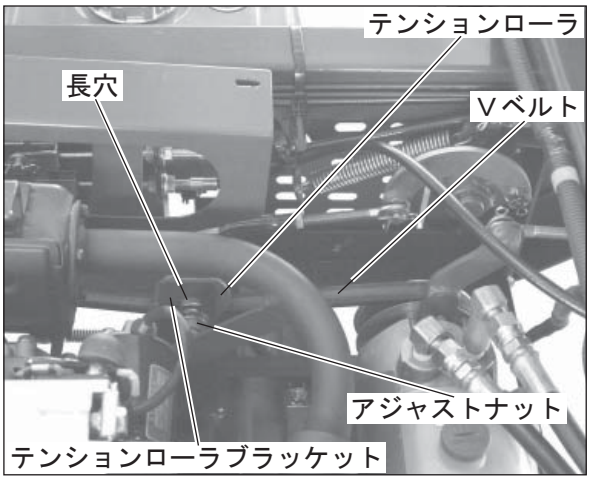
［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

点検

Ｖベルトにすべりがないか確認してください。

調整

①テンションローラのアジャストナットをゆるめ、テンションローラをテンションローラブラケットの長穴の下側に移動させてＶベルトを張って調整します。



②調整後はアジャストナットを確実に締め込んでください。

※Ｖベルトに損傷があるときは、交換してください。

※調整、交換については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

21. アクセルペダルの調整のしかた

点検

①エンジンを始動させ、アクセルペダルを踏んだときに、エンジン回転が追従していることを確認してください。

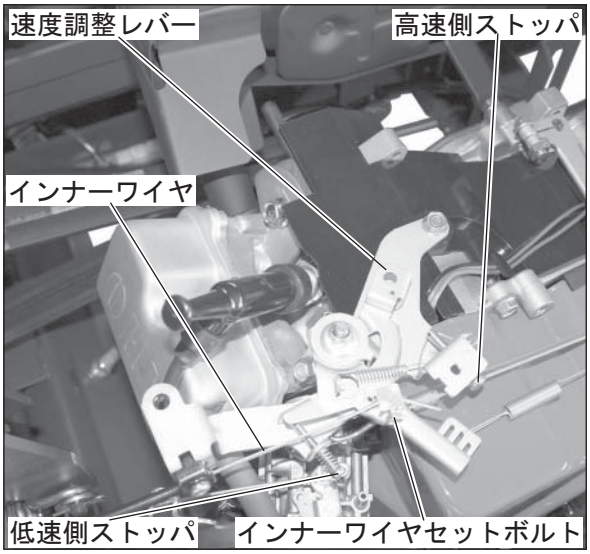
②アクセルペダルを一杯に踏込んだとき、エンジン本体上部の速度調整レバーが高速側ストッパに当たり、同時にアクセルペダル取付部裏側のアクセルペダル装置にある高速側ストッパアジャストボルトにアクセルペダル装置アームが当たることを確認してください。

調整

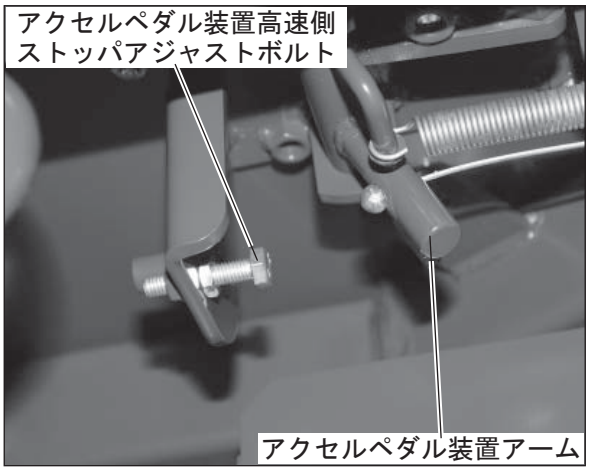
①エンジンが停止していること確認します。

②エンジン側のインナーワイヤセットボルトをゆるめ、インナーワイヤをプライヤーなどで引張り遊びをなくします。

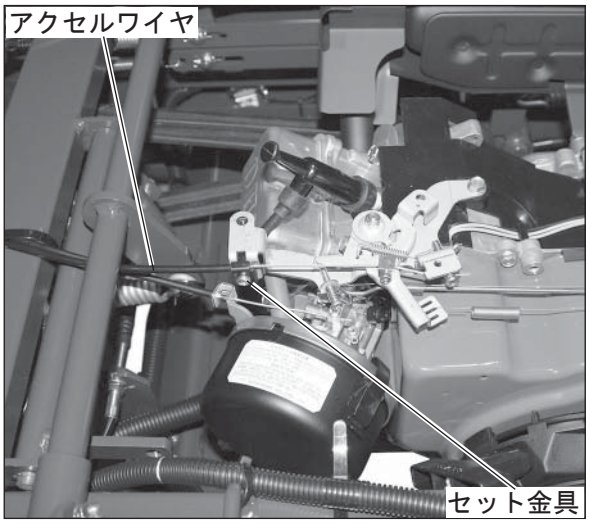
③エンジン側の速度調整レバーが低速側ストッパで止まった位置でセットボルトを締付けます。



④アクセルペダルを手で押さえエンジン側の速度調整レバーが高速側ストッパに当たった位置でアクセルペダルが止まるようにアクセルペダル装置の高速側ストッパアジャストボルトを調整します。



⑤エンジン側のアクセルワイヤ先端がセット金具から外れないように軽くカシメられていることを確認してください。



※調整後は、アクセルペダルによりエンジン回転が追従することを確認してください。

※調整については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

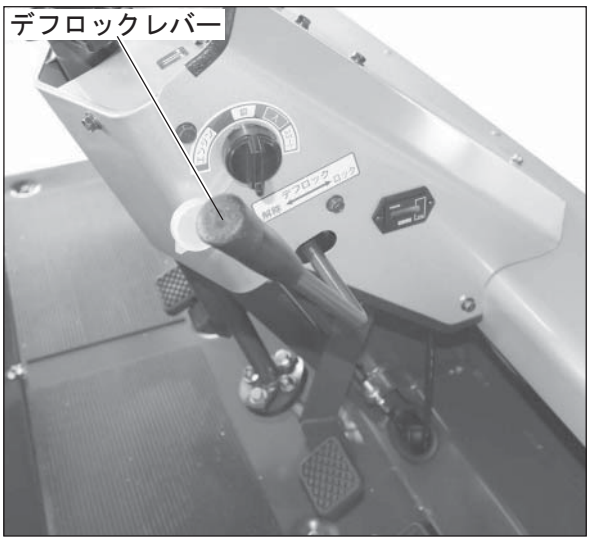
［重要］

●アクセルペダルは必ず高速側ストッパアジャストボルトで踏込み量を制限してください。エンジンの速度調整レバーの変形、インナーワイヤの抜けなどが発生し、故障の原因となります。

22. デフロックレバーの調整のしかた

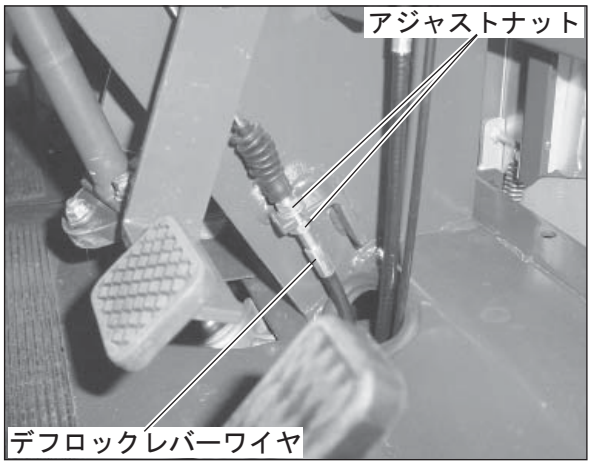
点検

デフロックレバーが**「解除」**位置のときのデフロックレバーの遊びがないことを確認してください。



調整

デフロックレバー側のデフロックレバーワイヤをデフロックレバーの遊びがないように調整してください。



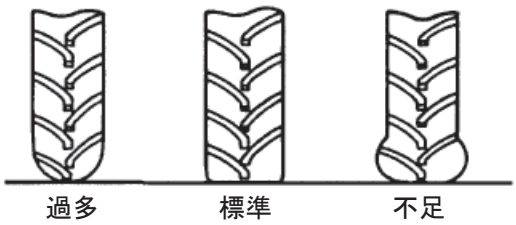
※調整、交換については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

23. タイヤ空気圧の調整のしかた

⚠注意

●指定された空気圧になっていないと、運転中にハンドルを取られたり、異常磨耗や損傷のおそれがあります。必ず作業前点検で確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧 KPa (kgf/c ㎡)
前輪	18 × 7.00-8-4PR （チューブ無）	２６０ （２．６）
後輪	19 × 8.00-10-4PR （チューブ有）	２４０ （２．４）

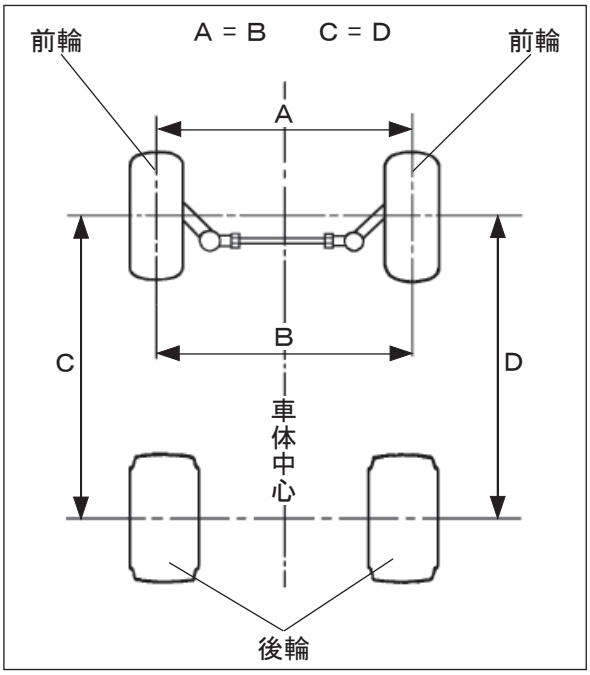


24. トーインの点検・調整のしかた

トーインの調整が悪いと、タイヤが偏磨耗するばかりではなく、ハンドルを取られたり直進性が悪くなります。調整はお買上げいただいた販売店・ＪＡで行ってください。

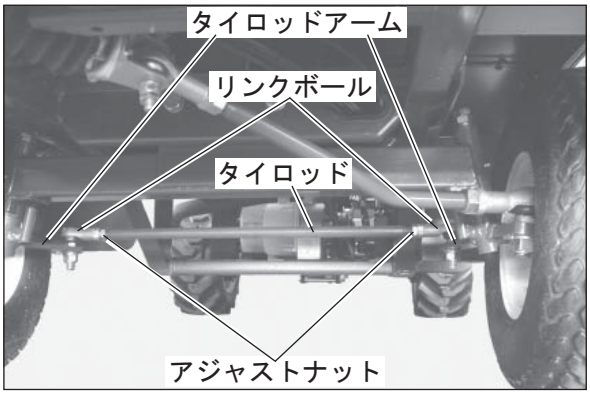
点検

機体を真直ぐにし、前輪の前幅Ａと後幅Ｂを測り、Ａ＝Ｂになっているかを調べてください。



調整

①左右のタイロッドアームに連結されているリンクボールのアジャストナットをゆるめタイロッドを回して調整します。



②調整後はアジャストナットを確実に締付けてください。

※調整、交換については、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

25. 開閉フックの調整のしかた

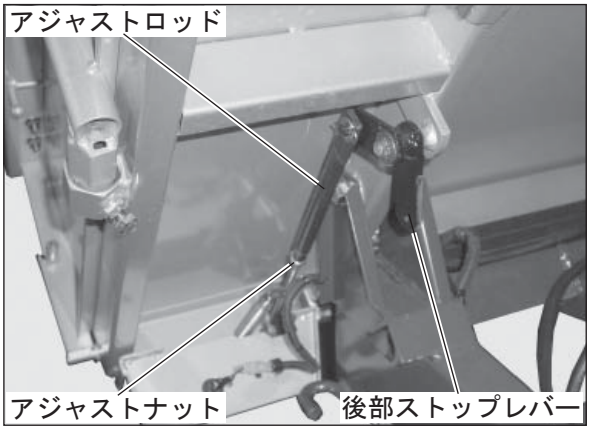
［ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様］

点検

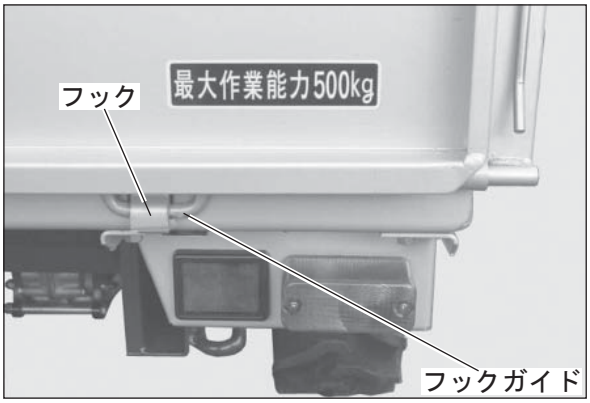
荷台を下まで降ろしたときにあおりがフックで固定されることを確認してください。

調整

①荷台を下げた状態であおりのガタがないように、後部ストップレバーからアジャストロッドを外し、アジャストナットをゆるめて調整します。



②荷台を上下させ、フックがフックガイドなどに干渉しないことを確認してください。



［重要］

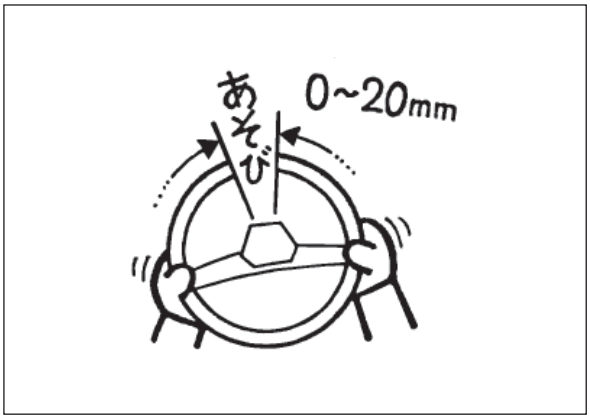
●調整が悪いと後部あおりが開かなかったり、振動し異音がおきることがあります。また、フックがフックガイドなどに干渉し、フックや調整ロッドの変形につながります。

26. ハンドルの点検のしかた

⚠警告

●ハンドルに著しくガタや遊びがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が０～20㎜の範囲であるか確認してください。遊び量が適正でない場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検、調整を受けてください。



8章　不調診断

⚠警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店・ＪＡに連絡してください。

１．エンジン関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	バッテリが弱い	充電または交換	６５
	配線の断線または接続不良	修理または交換	―
	ヒューズ切れ	交換する	６５
	キースイッチの故障	交換する	―
	セルモータの故障	修理または交換	―
	始動安全スイッチの作動不良	調整または交換	７１
	クラッチペダルを踏込んでいない	クラッチペダルを踏込む	３４
	主変速レバーが「Ｎ（中立）」位置になっていない	主変速レバーを「Ｎ（中立）」位置にする	３４
セルモータは回るがエンジンが掛からない	購入後１ヶ月以上経過した燃料を使用していませんか。	燃料タンク・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料を補給をしてください。	４９
	燃料が供給されない	燃料コックを開ける	３４
	燃料フィルタの詰まり	フィルタの交換	６１
	燃料ポンプの作動不良	販売店・ＪＡで修理	６１
	点火プラグの不良	清掃または電極すきまの調整 交換	６４
	気化器のつまり	販売店・ＪＡで清掃または交換	―
	燃料こし器の詰まり	フィルタの清掃または交換	６０
	その他エンジン本体の不具合	販売店・ＪＡで修理	―

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
セルモータの回転が上がらない	バッテリが弱い	充電または交換	６５
	配線の断線または接続不良	販売店・ＪＡで修理	―
エンジン回転が不規則である	燃料フィルタの詰まり	フィルタの掃除または交換	６１
	ホース系の燃料もれまたはエア混入	締付バンドの締付け､またはホースの交換	６２
	燃料ポンプの作動不良	配線の修理またはポンプ交換	６１
	点火プラグの不良	清掃または電極すきまの調整、交換	６４
	気化器の詰まり	販売店・ＪＡで修理または交換	―
エンジンを低速にすると停止する	点火プラグの不良	清掃または電極すきまの調整、交換	６４
	気化器の詰まりおよび調整不良	販売店・ＪＡで修理または交換	―
	アクセル調整不良	アクセル調整	７３
運転中に突然、エンジンが停止した	燃料不足	燃料補給	３３
	エンジンオイル不足	エンジンオイル補給	５７
	オイル不足または潤滑油不良によるエンジン焼付け	販売店・ＪＡで修理	５７
マフラーから異常な煙が出る	エアクリーナの詰まり	エレメントの掃除または交換	５９
	エンジンオイル量が多い	点検し適正量にする	５７
	燃料供給量不良	販売店・ＪＡで調整	６１
	燃料がよくない	正規の燃料に入換える	４９・５４

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
エンジン出力不足	積載量が多すぎる	積載量を減らす	４１
	気化器の調整不良	販売店・ＪＡで調整	―
	冷却空気取入れ口やシリンダフィン部にゴミが付いている	掃除する	―
	点火プラグの不良	交換する	６４
	エンジンオイル量が多すぎるか、少なすぎる	点検し適正量にする	５７
	エアクリーナの詰まり	エレメントの掃除または交換	５９
	エンジンオイルが汚れている	交換する	５７
	その他エンジン本体の不具合	販売店・ＪＡで修理	―

２．クラッチ関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
クラッチがすべる	クラッチペダルの調整不良	販売店・ＪＡで調整	６９
クラッチが切れない	クラッチペダルの調整不良	販売店・ＪＡで調整	６９

３．ブレーキ関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
ブレーキの効きが悪い、または片効きである	ブレーキペダルの遊びが多すぎる	遊びの調整	６７
	ライニングの磨耗・焼付け	遊びの調整	―
ブレーキペダルの戻りが悪い	ブレーキ戻しのスプリングの損傷	スプリング交換	―
	各摺動部のグリス切れ	錆落とし、グリスアップ	―
	ワイヤの調整不良	ブレーキペダルの調整	６７

４．チェンジ・伝動関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
主変速レバーが各変速位置に入らない	主変速レバーの変形	販売店・ＪＡで交換	―
クラッチペダルを放しても発進しない	走行ベルトのスリップ	クラッチペダルの調整	６９
	走行ベルトの磨耗	ベルトの交換	６９
	駐車ブレーキのロック	ブレーキ解除または調整	３８
クラッチペダルをを踏込んでも停止しない	走行ベルトのつき回り	販売店・ＪＡで交換	６９

５．操行関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
ハンドルが重いハンドルがとられる	トーインが正しくない	販売店・ＪＡで調整	７５
	タイヤ空気圧が不揃い	全タイヤを規定空気圧にする	７５
	各タイロッドにガタがある	増締めまたは販売店・ＪＡで修理または交換	―
	タイヤがパンクまたは磨耗している	タイヤの交換	―
	ステアリングギヤボックスの故障	販売店・ＪＡで修理または交換	―
ハンドルの遊びが多い	ハンドルシャフトの磨耗	販売店・ＪＡで修理または交換	―
	タイロッドにガタがある	増締めまたは販売店・ＪＡで修理または交換	―
	ステアリングギヤボックスの磨耗	販売店・ＪＡで修理または交換	―

６．油圧関係（ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様）

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
油圧レバーを操作しても動かない	油圧駆動ベルトのスリップ	ベルトの張り調整または交換	７２
	積み過ぎ	積載量を減らす	４１
能力がでない	作動油の減少・質の低下	作動油の補給または交換	５９
	シリンダー内にエアの混入	エア抜き	―
	油圧ポンプエアブリーザーの目詰まり	清掃する	―
油もれがする	配管結合部のゆるみ	増締め	―
	シールの劣化・磨耗	交換する	―
	油圧ホースの亀裂	交換する	―

７．電装関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
バッテリが充電されない	配線の断線または接続不良	清掃または交換	―
	ヒューズ切れ	交換する	６５
	カレントリミッタ不良	交換する	―
	エンジン発電不良	販売店・ＪＡで修理または部品交換	―
	バッテリの機能不良	端子のゆるみ、腐食、蒸留水などの補給またはバッテリ交換	６５
ライトが暗い	バッテリの性能低下	充電する	６５
	エンジン発電不足	販売店・ＪＡで修理	―
ライトが点灯しない	結線、接触不良	アースおよびターミナルの点検清掃および増締め	―
	電球切れ	電球交換	６２
	ヒューズ切れ	配線をチェックしヒューズを交換する	６５
	接触不良	アースおよびターミナルの点検清掃	―
ホーンが鳴らない	ウインカスイッチの故障	交換する	―
	配線不良	修理する	―
	ホーンの損傷	交換する	―
ウインカが点滅しない	電球切れ	電球交換	６２
	フラッシャーリレーの故障	交換する	―
	接触不良	アースおよびターミナルの点検清掃	―
ウインカ作動確認ランプの点滅回数が変化する	ウインカの電球切れ	電球交換	６２
	ウインカスイッチで指示側の前面または側面または後面の方向指示器の失陥	販売店・ＪＡで修理	―

1．主要諸元

販売型式名				NKRF19−A	NKRF19D−A
機体寸法	全長（mm）			3305 （バンパー前端〜荷台後端）	3315 （バンパー前端〜荷台後端）
	全幅（mm）			1155（前輪タイヤ両端）	
	全高（mm）			1300（あおり上端）	
機体質量（kg）				515	540
エンジン	型式名			GB220LE	
	種類			空冷4サイクル　1シリンダー　ガソリン	
	最大出力 {kW(ps)}			5.1（7.0）	
	定格出力/回転速度 {kW(ps)/rpm}			3.7（5.0）/ 1800	
	総排気量 {L（cc）}			0.215（215）	
	始動方式			セルモータ式（リコイルスタータ式）	
	燃料/タンク容量（L）			自動車用無鉛ガソリン（JIS K2202相当品）/ 6.0	
伝動・走行部	変速段数			前進3段　後進1段	
	走行速度（km/h）	前進	1速	3.4	
			2速	7.0	
			3速	12.5	
		後進	1速	3.5	
	タイヤ	前輪		18×7.00−8−4PR	
		後輪		19×8.00−10−4PR	
	輪距（mm）	前輪		935	
		後輪		935	
	軸距（mm）			1595	
	ブレーキ型式/取付位置			内部拡張式/（後2輪φ180＆センターブレーキφ130）	
荷台	寸法（mm）			長さ1840　幅1040 高さ250	長さ1850　幅1040 高さ250
	最大作業能力（kg）			500	
	荷台形式			固定式	油圧式ダンプ
型式認定番号				特2195	

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

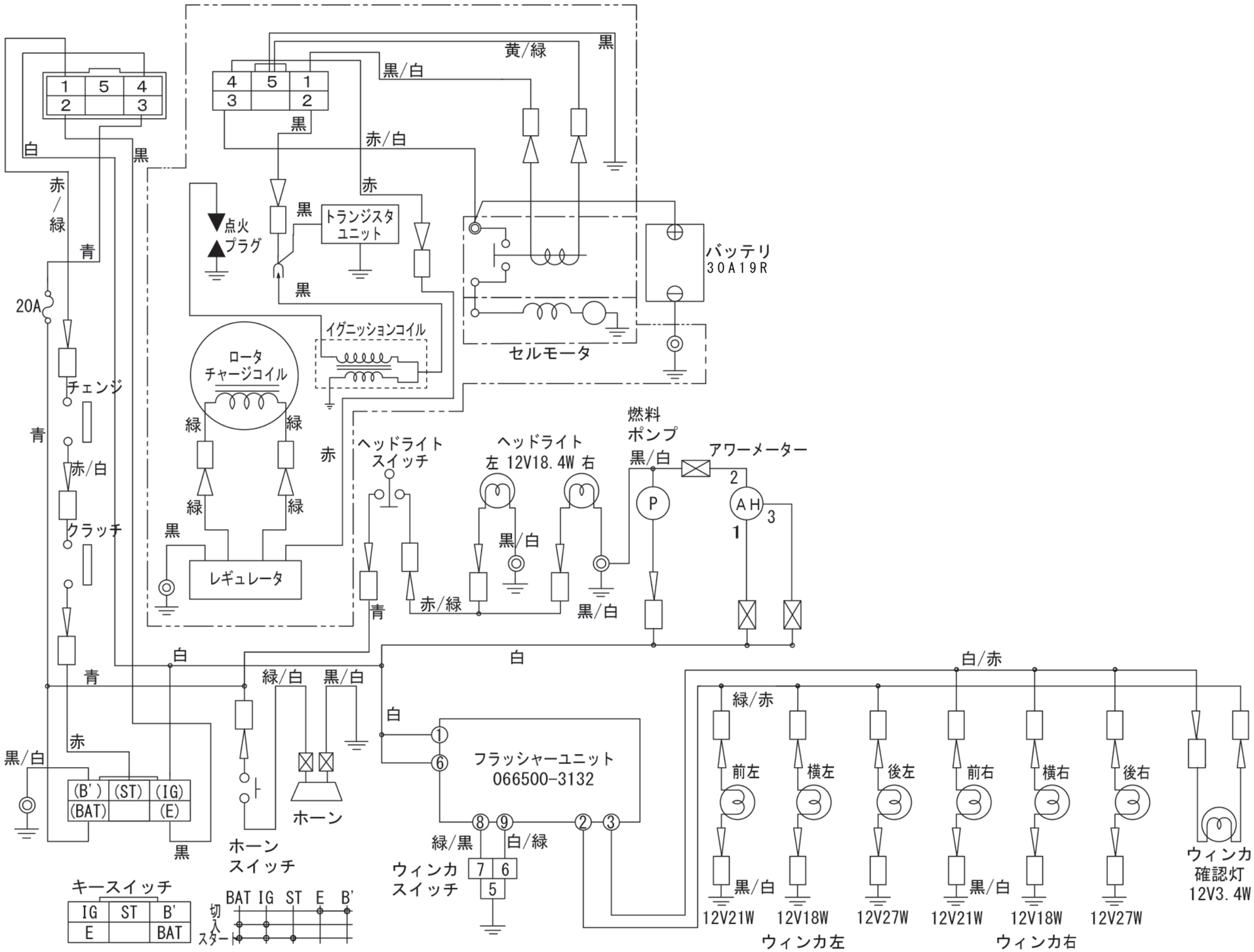
２．主要消耗部品

NO.	品名		個数	部品番号	備考
１	Ｖベルト（走行用）		２	１Ｎ３６８０－２１０００	ＯＲＬＢ５３
２	Ｖベルト（油圧用）		１	１Ｎ３６８０－２１０１０	ＯＲＬＢ３９ ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ仕様
３	サイドブレーキワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０００	
４	デフロックワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０１０	
５	アクセルワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０２０	
６	チョークワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０３０	
７	チェンジワイヤ（左右用）		１	１Ｎ３６８０－４２０４０	
８	チェンジワイヤ（前後用）		２	１Ｎ３６８０－４２０５０	
９	ブレーキペダルワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０６０	
１０	クラッチペダルワイヤ		１	１Ｎ３６８０－４２０７０	
１１	ヒューズ		１	１Ｎ３６８０－５１２６０	２０Ａ
１２	電球	ヘッドライト用	２	１Ｎ３６８０－５１３２０	バルブ　１２Ｖ１８．４Ｗ
１３		ウインカ（フロント）用	２	１Ｎ３６８０－５１３３０	バルブ　１２Ｖ２１Ｗ
１４		ウインカ（サイド）用	２	１Ｎ３６８０－５１３４０	バルブ　１２Ｖ１８Ｗ
１５		ウインカ（リヤ）用	２	１Ｎ３６８０－５１３５０	バルブ　１２Ｖ２７Ｗ
１６	ブレーキシューシクミ		１	１Ｎ１２１２－２０２５０	センターブレーキ用
１７	ブレーキシューＣＭＰ		２	７Ｎ１２１０－２７０５０	車軸ブレーキ用
１８	ＦＯフィルタ		１	１２４１９０－５５５００	
１９	タイヤ（前輪）		２	１Ｎ３６８０－３７０４０	１８×７．００－８－４ＰＲ
２０	タイヤ（後輪）		２	１Ｎ１２８３－３７１１０	１９×８．００－１０－４ＰＲ
２１	バッテリ		１	１Ｎ１２８６－５１０９０	３０Ａ１９Ｒ
２２	グリスニップル		１	２４７６４－０２００００	Ａ－ＰＴ 1/８
２３	グリスニップル		２	２４７６１－０６００００	Ａ－ＭＴ６×１
２４	グリスニップル		２	１Ｎ３５０５－３３０４０	Ｂ－ＭＴ６×１
２５	エアクリーナエレメント		１	ＫＡ０１０４９ＡＡ００３	
２６	点火プラグ		１	ＫＥ４１００９ＡＡ	ＮＧＫ－ＢＰＲ６ＨＳ

付属品

No.	品名	個数	部品番号	備考
１	ボックススパナ（Ｌ＝９４）	１	ＫＮ１２００４ＢＡ	
２	スクリュードライバ	１	ＫＮ１３００２ＡＡ	
３	ヒューズ	１	１Ｎ３６８０－５１２６０	２０Ａ（ブレードヒューズ）
４	取扱説明書	１	１Ｎ３６８０－９５１１１	
５	保証書	１		

●ＮＫＲＦ１９－Ａ・ＮＫＲＦ１９Ｄ－Ａ（ＧＢ２２０ＬＥ）



株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田 566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。